



Sustainability Book 2021

サステナビリティブック 2021
サッポロホールディングス株式会社

Message from the President

社長メッセージ



「ブランドカンパニー」としての
強みを活かしつつこだわりの「ものづくり」、
地域に根ざした「まちづくり」を通じて、
活力あふれる社会の実現に
貢献していきます。

代表取締役社長
尾賀 真城

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「暮らし方」や「働き方」、「人や社会との関わり方」において、人々の意識と行動が大きく変化した1年でした。外食や観光業、一部エンターテインメント業界などで厳しい状況が続く一方、テレワークの推進や巣ごもり需要の拡大により、従来とは違う市場機会や、新たな価値創出のきっかけになったと感じています。

社会課題の複雑化が進む現代では、事業活動における経済的価値と社会的価値の両立が求められます。これからは従業員一人ひとりが、日頃の業務が社会課題につながっていて、その解決を目指すという意識を強く持ち、グループ全体で共有し、解決していかなければなりません。社会から必要とされる会社として持続的な成長をし

ていくために、「グループ経営計画2024」では、基本方針の一つに「サステナビリティ経営の推進」を掲げ、指針となる「サステナビリティ方針」も策定しています。

環境面では、環境負荷低減の指針として、環境ビジョンにおいて2050年までに自社拠点でのCO₂排出量をゼロにするという目標を掲げています。この目標に向け、「恵比寿ガーデンプレイス」にある自社オフィスや施設共用部などの電力について、2022年までに再生可能エネルギーへの切り替えを目指すなど、具体的な取り組みを着実に進めています。

社会面では、3事業のポートフォリオ経営を活かし「まちづくり」に取り組んでいきます。ただ不動産を保有するのではなく、お客様に『酒・食・飲』の要素も加えた「そ

こでしかできない」特別なブランド体験を提供することが、当社の目指す「まちづくり」であり、多くの不動産を保有する理由です。

サステナビリティ経営を担うのは、サッポログループの人財一人ひとりです。さまざまな業務や領域を越境し、個性を發揮しながら挑戦できる環境づくりのほか、女性活躍支援などの取り組みとともに、ダイバーシティ&インクルージョンを推進し、企業価値向上につなげていきます。また、新たに人権方針を策定し、バリューチェーン全体での人権に関する影響を認識し、人権尊重への取り組みを進化させています。

長期ビジョンである「個性かがやくブランドカンパニー」には、従業員一人ひとりが生き生きと自分の個性を發揮できる会社でありたいという想いが込められています。人々に楽しさや喜びを提供している会社だからこそ、その担い手である従業員にも楽しんで働いてほしいと思います。安らぎや感動、そして人々に活力をお届けする会社であることが私たちの存在意義です。これからも、こだわりをもって常に新たな価値に挑む会社であり続けますので、ステークホルダーの皆様には、今後とも変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

2021年7月

尾賀 真城

CONTENTS

サステナビリティブック 2021
サッポロホールディングス株式会社

- | | |
|--|--|
| <p>1 社長メッセージ</p> <p>3 サッポログループの価値創造ストーリー</p> <p>4 サステナビリティ経営の推進</p> <p>6 4つの約束</p> <p>10 ● 約束1 『酒・食・飲』による潤いの提供</p> <p>14 ● 約束2 社会との共栄</p> <p>19 ● 約束3 環境保全</p> <p>24 ● 約束4 個性かがやく人財の輩出</p> | <p>28 <i>Special Feature 1</i> 気候変動への取り組み
原料・製造へのこだわり</p> <p>35 <i>Special Feature 2</i> レモン事業 — 新しいレモン需要の創造</p> <p>36 <i>Special Feature 3</i> プランツミルク事業 — 植物由来商品の展開と拡大</p> <p>37 <i>Special Feature 4</i> 恵比寿ガーデンプレイス — “まちとのつながり”を育む</p> <p>38 コーポレートガバナンス</p> <p>40 コンプライアンス</p> <p>41 リスクマネジメント</p> <p>44 コーポレートデータ</p> |
|--|--|

賛同・支持するイニシアティブ

- 国連グローバル・コンパクト
- 持続可能な開発目標 (SDGs)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)



WE SUPPORT
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

参考としたガイドライン

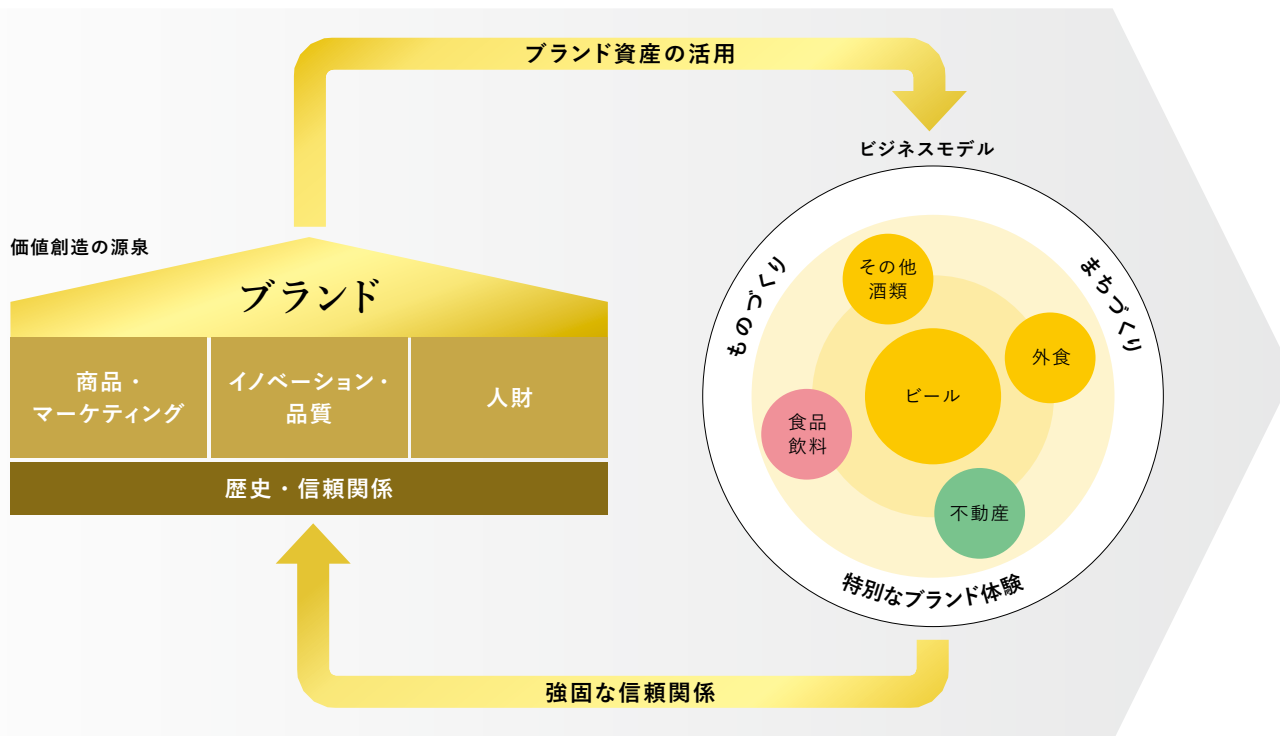
- GRI (Global Reporting Initiative) 「サステナビリティ・レポートング・スタンダード」
(企業のサステナビリティ報告に関する国際的なガイドライン)
- 国際標準化機構「ISO26000」(社会的責任に関する国際的なガイダンス規格)
- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

Value Creation Story

サッポログループの価値創造ストーリー

サッポログループは、ビールを起源とした酒類事業はもとより、食品・飲料・不動産へと事業を拡大し、お客様の生活のさまざまな場面に関わってきました。私たちは、140年以上の歴史・お客様との信頼関係・ユニークな商品・イノベーション・品質・人財といった強みを構成要素とするブランドを磨き続けることで、社会課題を解決し、持続可能な社会の実現を目指していきます。

ブランドを磨くプロセス



価値創造を支える基盤

コーポレートガバナンス

サステナビリティ経営



— 長期ビジョン —

個性かがやくブランドカンパニー

— 世の中に提供する価値 —

お客様一人ひとりの記憶に深く残る
特別な時間や体験を続々と提供

活力あふれる社会の実現に貢献



サステナビリティ経営の推進

サステナビリティ方針

サッポログループは、2019年に策定した「サッポログループサステナビリティ方針」のもと、気候変動、食品ロス、海洋プラスチックごみ、地域活性化といった社会課題に対する事業を通じた取り組みを「サステナビリティ経営」として推進しています。

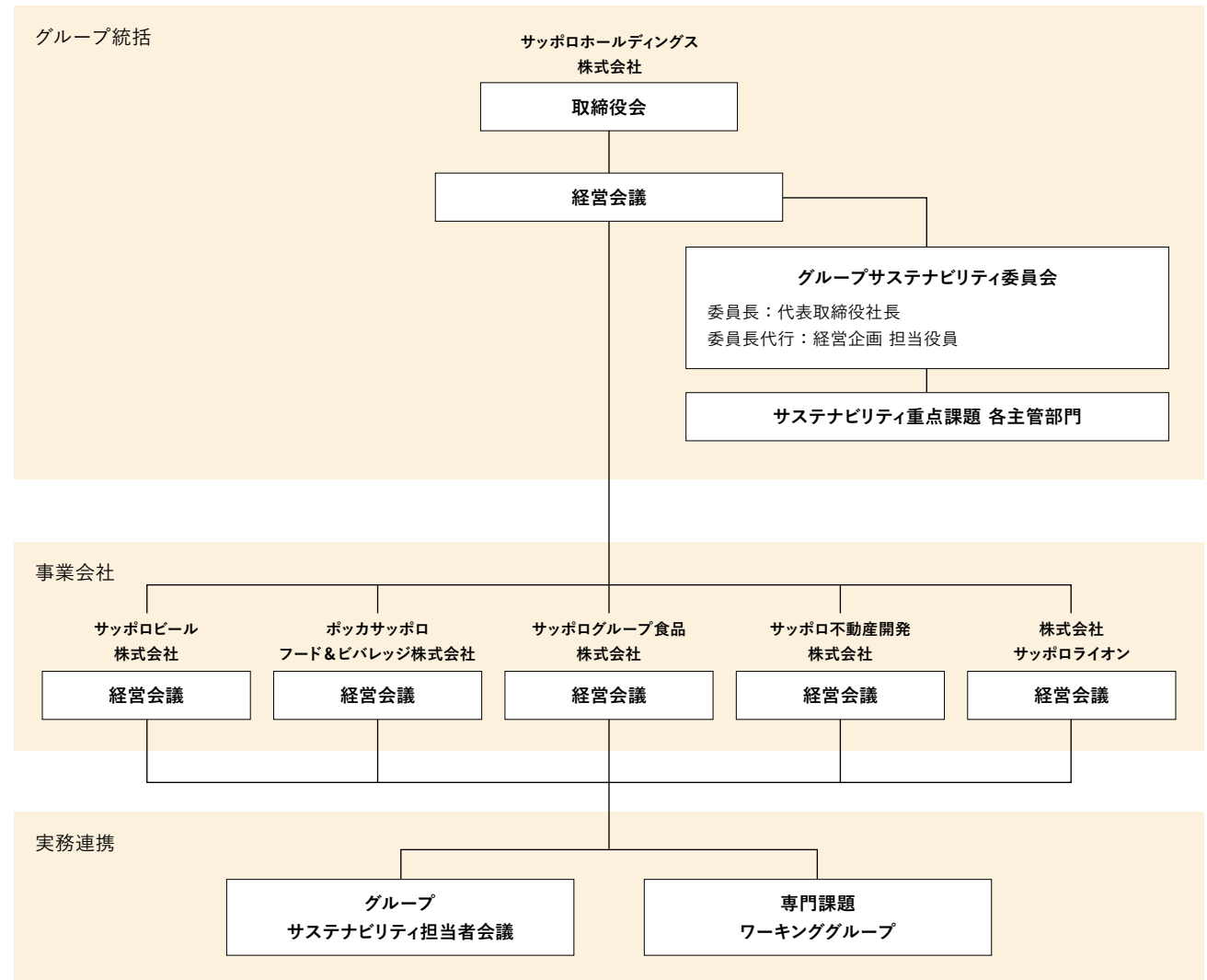
これからも、世界中のサッポログループ従業員と、ステークホルダーとのパートナーシップのもとに、社会価値と経済価値の創出を両立させ、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

 **サステナビリティ方針:**
<https://www.sapporoholdings.jp/csr/plan/>

サステナビリティ推進体制

サッポロホールディングスは、サッポログループのサステナビリティ活動推進のための全体方針を策定し、グループ内の連携・調整を行うための機関として、代表取締役社長を委員長とする「グループサステナビリティ委員会」を設置しています。

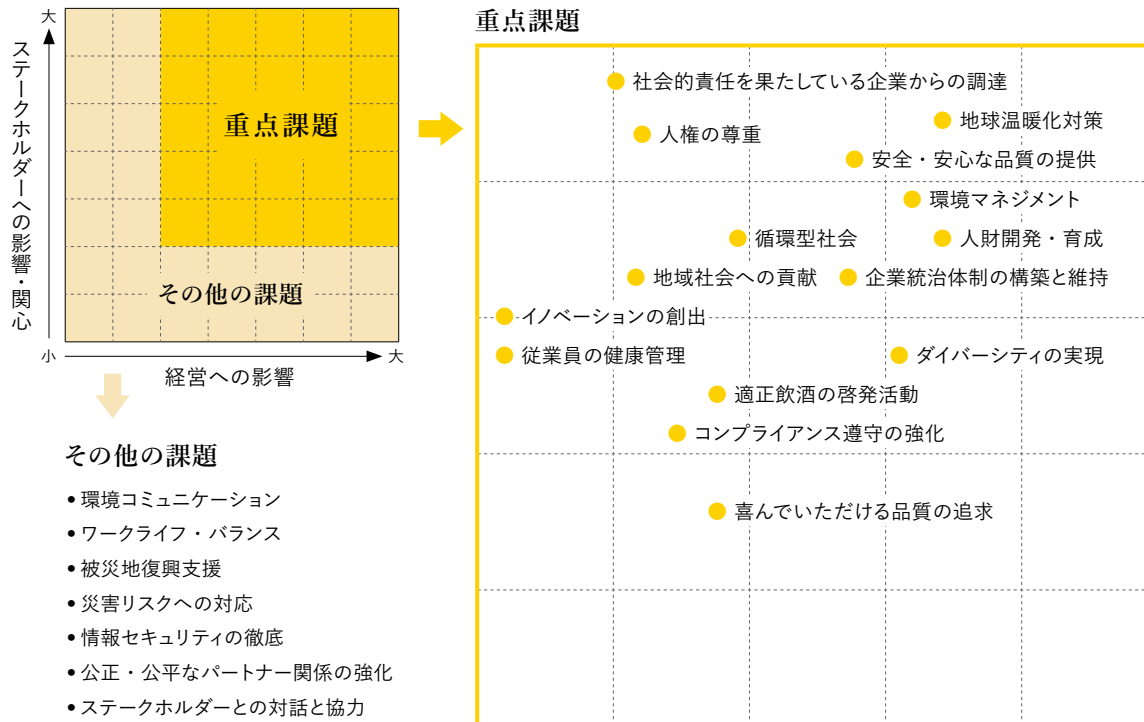
サッポログループのサステナビリティ推進体制 (2020年12月現在)



重点課題の特定

サステナビリティ重点課題の特定に向けては、経営への影響度およびステークホルダーへの影響・関心度を二軸に、重点課題候補をマッピングして絞り込みを行いました。その上で、重点課題候補をガイドラインやステークホルダー、経営者などのさまざまな視点から分析し、重点課題を特定・更新しています。

重点課題の特定



サステナビリティ経営戦略

Sustainable Smile Plan

「サッポログループ サステナビリティ方針」のもと、取り組みの軸となるサステナビリティ重点課題を「4つの約束」として整理し、バリューチェーン上のさまざまなステークホルダーと協力しながら、持続可能な笑顔づくりを推進し続けます。

約束1

『酒・食・飲』による
潤いの提供

- 安全・安心の品質
- 新価値創造
- 適正飲酒啓発とビール文化継承

約束2

社会との共栄

- 地域貢献
- 持続可能な調達

約束3

環境保全

- 地球温暖化防止
- 3Rの推進
- 自然との共生

約束4

個性かがやく
人財の輩出

- 健康経営
- ダイバーシティ・人権
- 人財開発・育成

4つの約束






約束 1

『酒・食・飲』による潤いの提供

『酒』『食』『飲』を通じて、新しい価値を創造し、お客様に喜びと潤いをお届けします。

略称表記一覧






サッポロホールディングス：SH サッポロビール：SB ポッカサッポロフード&ビバレッジ：PS サッポロライオン：SLN サッポロ不動産開発：SRE 恵比寿ガーデンプレイス：YGP サッポロファクトリー：SF 神州一味噌：SSI
※子会社の記載がない項目は、サッポログループとしての取り組みです。

重点課題	SDGs	中長期目標(2030年)	進捗実績(2020年)	取り組み予定(2021年)
安全・安心の品質		<ul style="list-style-type: none"> 『酒』『食』『飲』の品質を高める企業文化醸成・人材の継続的育成に努め、国際標準である食品安全システムの活用を基本として、効果的な品質保証体制を構築する。 お客様のニーズに応じた適切な品質レベルを追求し、商品・サービスの品質トラブルゼロを目指す。 新技術を積極的に取り入れ、高レベルの品質をより効率的に実現していく。 	<ul style="list-style-type: none"> FSSC22000、ISO22000、ISO9001およびHACCP等による食品安全と品質保証体制の維持／向上。 -2020年は特にFSSC22000、ISO22000の認証取得範囲の拡大や、食品衛生法改正に伴うHACCP制度化対応を実施。 グループ各事業会社間での定期コミュニケーション継続、現場確認を実施。グループで対外発信を要する品質トラブルの発生はなかった。 表示チェックへのAI活用の検討を継続中。SB PS 表示確認業務のペーパーレス化・テレワーク対応実現。SB 	<ul style="list-style-type: none"> FSSC22000やHACCPの導入による予防型品質保証体制の効果的な構築、維持、運用。 『お客様の声』の迅速かつ確実な共有によるサステナビリティ経営の推進。 品質保証活動における生産性向上の検討。
新価値創造	  	<ul style="list-style-type: none"> 未来の変化を先取りし、「おいしさ」と「健康」のニーズに応えるための研究開発を推進する。 強みを有する植物性素材の研究と加工技術を活かした商品を通じて、新たな顧客価値を提供する。 グループ内外の連携を強化し、多様な技術を効率的に獲得し、イノベーションを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ビールテイスト商品として、新ジャンル「GOLD STAR」、尿酸値を下げるノンアルコールテイスト「うまみ搾り」などおいしさ、健康への新たな価値の商品を送り出している。SB 食品領域では、コア素材レモンを活かした商品開発や豆乳ヨーグルトの健康機能検証に取り組んでいる。PS 	<ul style="list-style-type: none"> 「おいしさ」と「健康」を基軸に、お客様ニーズや生活様式の変化に対応した価値を提案できる研究開発、商品提案を継続的に実施。
適正飲酒啓発とビール文化継承		<ul style="list-style-type: none"> 「20歳未満飲酒」「飲酒運転」「アルコールハラスメント」等の不適切飲酒撲滅に向けた啓発活動を推進する。 ミュージアム・工場の見学、「日本ビール文化研究会」の支援を通じて、日本のビール文化の継承を図り、潤いのある生活に貢献する。SB SLN 	<ul style="list-style-type: none"> (社外)社会に対する適正飲酒の啓発活動を継続的に推進。 <ul style="list-style-type: none"> 飲酒防止用小冊子「知っておこう お酒のこと」を小中学校へ配布。 大学や企業に対し、適正飲酒セミナーを開催。 アルコール専用グラスを導入し、誤飲事故防止策を強化。誤飲事故0件・飲酒運転0件を達成。SLN (社内)グループ全従業員における「適正飲酒に関する基本方針」徹底。 グループ全社員向けに飲酒習慣スクリーニングテスト(AUDIT)を実施。 コロナ禍により2月25日～見学5施設は休館。予定していたイベントや新サービスはすべて中止。6月19日～順次再開するが入場規制継続。九州日田工場は11月5日よりリニューアルオープン。SB 一般社団法人日本ビール文化研究会への支援を継続。2020年の検定開催は中止。SB 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、社会における不適切飲酒撲滅と適正飲酒啓発活動を推進。 サッポログループが紡いできた事業の歴史をよりわかりやすく見学できる体制を整え、お客様接点を拡大。 利便性をさらに追求し、ユーザーフレンドリーの視点を加えた「日本ビール検定(びあけん)」の運営を目指す。2021年からCBT(Computer Based Testing)方式を新規導入。SB 「ビヤホールライオン 銀座七丁目店」の歴史と現在を発信。

約束 2

社会との共栄








地域社会の一員として地域の発展や課題解決に貢献し、地域の皆様やサプライヤーの皆様とともに良い未来を創造します。

重点課題	SDGs	中長期目標(2030年)	進捗実績(2020年)	取り組み予定(2021年)
地域貢献	  	<ul style="list-style-type: none"> 従業員一人ひとりが、地域貢献活動に積極的に取り組むことで、地域の発展に貢献する。 商品、サービスを通じて地域とつながり、ともに課題の解決に取り組む。 行政やパートナーと協働し、豊かな「まちづくり」を推進することで、地域の魅力向上に貢献する。 SRE SLN 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍対応として、行政を通じ医療従事者への支援実施。 自社拠点を中心としたこども食堂、社会福祉施設など地域へ製品の提供を実施。 令和2年7月豪雨被害に対し支援実施。 - 熊本県、大分県、日田市へ支援金寄付、また従業員募金を併せて実施し寄付。 - 熊本県、日田市へ飲料水、スूपの物資支援実施。 東北復興支援「東北未来プロジェクト」に伴う支援実施。 連携協定締結数：62件(2020年12月末時点) 被災地の食材を取り入れ各地の食材のおいしさを発信。 SLN 保有施設を開放。その他、近隣地域の行事に協力。SRE コロナ禍の飲食店支援として渋谷区テイクアウト・デリバリーMapへ協賛。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、グループ会社の各拠点において、地域の課題解決につながる具体的な取り組みを実施。 地域SNSアプリ「ピアッザ」と連携した地域コミュニティの活性化。 YGP 地域のパートナーと協働した恵比寿文化祭の開催。YGP 渋谷区全体でのまちなかイベント(渋谷おとなりサンデー)への参加。 YGP 2020年実施のエリア内居住者アンケートをもとにエリア内居住者を対象にしたサービス企画の立案。SF 創成川イーストエリアの活性化に向けた取り組み(イベントや環境整備等)を札幌市、町内会、近隣小中学校PTA、企業と検討、実施。 SF
持続可能な調達	 	<ul style="list-style-type: none"> 主要調達先のうち、サステナビリティ調達ガイドラインを満たす調達企業の割合を90%以上とする。 SB PS 	<ul style="list-style-type: none"> 主要サプライヤー様に対して「マーケティング方針説明会」等で、グループ調達基本方針、サステナビリティ調達の説明と要請実施。 CSR調達アンケートを主要サプライヤー様に対して実施し、サステナビリティ調達の実施状況を確認。主要調達先のうち、サステナビリティ調達ガイドラインを満たす調達企業の割合は89%となった。 サプライヤー満足度調査を実施し、サッポログループ調達基本方針の浸透度と「公正・公平」な調達活動等に関する評価実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「グループ調達基本方針」および「サステナビリティ調達」に関する理解と協力要請の実施。 サプライヤー様におけるサステナビリティ調達状況の確認実施(CSR調達アンケート実施)。 「公正・公平」な調達活動の検証。 サプライヤー満足度調査の実施と抽出課題への取り組み。

約束 **3**

環境保全


自然の恵みを未来に受け継ぐため、事業の各段階において環境保全に取り組み、従業員一人ひとりが主体的に環境活動を推進します。

重点課題	SDGs	中長期目標(2030年)	進捗実績(2020年)	取り組み予定(2021年)	
地球温暖化防止		<ul style="list-style-type: none"> 自社拠点でのCO₂排出量を2013年比で20%削減する。(2013年時事業会社) 	<ul style="list-style-type: none"> 自社拠点CO₂排出量削減率* : 11%達成(2013年比) TCFDシナリオ分析は、ビール原料農産物の収量に関する分析を終了し、リスク・機会を特定。 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーの推進。CO₂排出量前年比▲1.0%。 酒類事業のシナリオ分析などTCFDに基づく情報開示。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 自社拠点以外のバリューチェーンにおけるCO₂排出量削減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> スコープ3について4事業会社の2019年度*算定を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 主要事業会社におけるスコープ3算定とその情報開示。 	
3Rの推進		<p><水資源></p> <ul style="list-style-type: none"> 生産工場における水使用総量を2013年比で10%削減する。SB PS グローバルでの水リスクへの対策を実施し、水資源保全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産工場における水使用総量削減率* : 7.7%達成(2013年比) SB PS 国内外の生産拠点における水リスクの調査を実施。2021年に開示を予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 水の効率的使用 : <ul style="list-style-type: none"> -国内自社工場水使用量 2013年比 ▲11.7% SB -国内自社工場水使用量原単位 前年比 ▲0.5% PS 	
		<p><容器包装></p> <ul style="list-style-type: none"> 容器包装のリデュース(軽量化・簡素化)を維持・拡大する。 再生可能材料の利用を拡大し、容器包装材料の枯渇性資源依存を低減する。 社外との連携・協調を深め、持続可能な循環型社会の構築に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> 酒類・食品飲料製品容器包装における、リデュース・循環型社会対応素材への転換拡大施策例(2020年実績) : <ul style="list-style-type: none"> -軽量アルミ缶・缶蓋の展開拡大 SB -ビール6缶紙包材へのFSC®森林認証表示開始 SB -ショートフラップ段ボール使用拡大 重量比▲約115トン PS -軽量樹脂キャップの使用拡大 約30百万個/重量比▲約15トン PS -即席お徳用みそ汁の内包プラスチックトレイを廃止 プラスチック重量比▲約30% SSI 	<ul style="list-style-type: none"> 酒類・食品飲料製品容器包装における、リデュース施策の拡大。 酒類・食品飲料製品容器包装における、循環型社会対応素材への転換拡大。 資源循環に関わる業界団体との連携推進。 <ul style="list-style-type: none"> -清涼飲料におけるPET素材のボトルtoボトル推進への日本国内業界団体を通じた貢献。 	
		<p><廃棄物></p> <ul style="list-style-type: none"> 外食店舗、食品流通における食品ロスの削減に努める。(国内事業会社) 2024年までに食品廃棄物の再生利用等実施率50%を実現・継続する。SLN 廃棄物再資源化率の向上に努め、主要工場では100%を実現する。SB PS 	<ul style="list-style-type: none"> ビールテイスト製品の賞味期限の月表示への切り替え実施。SB 食品廃棄物の再生利用等実施率* : 43.3% SLN 廃棄物再資源化率 : 主要12工場で達成を目指す中、1工場のみ未達。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、外食店舗、食品流通における食品ロス削減への取り組み推進。 主要工場における廃棄物再資源化率100%を実現。SB PS 	
					
					
					

* サッポログループ環境ビジョン2050 およびESGデータの詳細については、当社Webサイトをご参照ください。

* 2019年4月~2020年3月で集計




サステナビリティ経営の推進

重点課題	SDGs	中長期目標(2030年)	進捗実績(2020年)	取り組み予定(2021年)
自然との共生		<ul style="list-style-type: none"> 気候変動に対応可能な特性を持つ大麦・ホップを開発する。SB 	<ul style="list-style-type: none"> 評価法の導入など着実に進捗している。 	(大麦) <ul style="list-style-type: none"> 実用的な赤かび病耐性、穂発芽耐性を持つ母本の選抜。 広い環境適応性を育種目標とした集団養成継続。 (ホップ) <ul style="list-style-type: none"> 気候変動に強いホップ遺伝資源の選抜へ向けた根系評価法の確立。 新規根系評価法による育成系統評価。
		<ul style="list-style-type: none"> YGP、SFを中心に、近隣生活者に自然と共生する暮らしを提供する。SRE 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地を含めた敷地空間の適切な管理を実施し、公開。YGP 従来の花壇プランターに加え、サッポロ広場に農園を新設。YGP 地元NPO法人と共同で野菜等の植付を実施。収穫した野菜の一部を地域の団体に寄付。SRE 	<ul style="list-style-type: none"> 都市のオアシス認定サイトとして緑地空間の維持・公開。YGP サッポロ広場での都市農(YEBISU GARDEN FARM)を通じ、季節の野菜の栽培体験の提供、収穫した野菜を使った食イベント(食育)の実施。YGP 北海道の各市町村が行っている森林資源保全の取り組み、木育活動への参加(近隣生活者を巻き込みながら)。SF 前年のジャンボクリスマスツリーを素材として使用する木育ワークショップの継続実施。 社員参加によるSF周辺植樹柵花植え/除草活動の実施。SF

約束 4

個性かがやく人財の輩出

「人財」の個々の能力を最大限発揮できる環境の整備を強化するとともに、健康・安全に向けた取り組みを推進します。

重点課題	SDGs	中長期目標(2030年)	進捗実績(2020年)	取り組み予定(2021年)
健康経営		<ul style="list-style-type: none"> 従業員および家族に健康への意識向上・行動変容を促し、健康維持増進につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高ストレス者割合：8% (ストレスチェック・従業員意識調査) SH SB PS SRE SLN 生活習慣病健診受診率：73%(40歳以上) SH SB PS SRE SLN 喫煙率：26.4% SH SB PS SRE SLN 	<ul style="list-style-type: none"> 高ストレス者割合を前年(8%)より改善させる (ストレスチェック・従業員意識調査) SH SB PS SRE SLN 生活習慣病健診受診率を100%に近づける SH SB PS SRE SLN 喫煙率を12%に近づける SH SB PS SRE SLN
ダイバーシティ・人権		<ul style="list-style-type: none"> 従業員一人ひとりがダイバーシティへの理解をより深め、誰もが生き生きと働ける環境を目指す。 女性管理職・女性役員比率を向上させる。(全社員に占める女性比率相当) 	<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ&インクルージョン・チーム力*：3.0ポイント (ストレスチェック・従業員意識調査) SH SB PS SRE SLN 女性管理職比率：4.2%(2020年) SH SB PS SRE SLN 	<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ&インクルージョン・チーム力*のポイントを前年(3.0ポイント)より向上させる (ストレスチェック・従業員意識調査) SH SB PS SRE SLN 女性管理職比率：4.8% SH SB PS SRE SLN
人財開発・育成		<ul style="list-style-type: none"> 「自分のキャリアは自分で切り拓く」従業員が活躍できる体制を整える。 がん治療中・介護中の社員が働き続けられる環境整備を行う。 障がい者雇用率3%を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高エンゲージメント者割合*：19% (ストレスチェック・従業員意識調査) SH SB PS SRE SLN 障がい者雇用比率：2.3%(2020年6月) SH SB 	<ul style="list-style-type: none"> 高エンゲージメント者割合*を前年(19%)より向上させる (ストレスチェック・従業員意識調査) SH SB PS SRE SLN 障がい者雇用率：2.4% SH SB

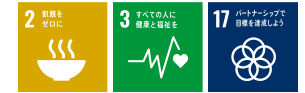
※ 一部データについては、ESG データ集でも実績を開示しています。

* 調査会社のアンケート調査における評価項目

4つの約束

略称表記一覧 サッポロホールディングス：SH サッポロビール：SB ポッカサッポロフード&ビバレッジ：PS サッポロライオン：SLN サッポロ不動産開発：SRE
恵比寿ガーデンプレイス：YGP サッポロファクトリー：SF 神州一味噌：SSI ※子会社の記載がない項目は、サッポログループとしての取り組みです。

約束 1 『酒・食・飲』による潤いの提供



安全・安心の品質

安全・安心を支える仕組み

サッポログループでは各事業の特性に応じ、国際的な食品安全マネジメントシステムである FSSC22000、ISO22000、品質マネジメントシステム ISO9001 および HACCP に沿った衛生管理を導入しています。

FSSC22000の第三者認証は、サッポロビールにおいて酒類主要8工場に加え、2020年は新たに商品・技術イノベーション部ミニブルワリーで認証を取得しました。ポッカサッポロでは認証取得済みの名古屋・群馬の2工場に加え、2021年は仙台工場で認証取得の予定です。また、サッポロベトナム社では、2020年にロンアン工場が第三者認証を取得しました。

サッポロライオン等外食事業では、2020年はHACCPに沿った衛生管理の導入を進め、2021年6月以降全店舗において運用しています。

サッポログループは今後も、食品安全と品質保証体制の維持・向上に取り組んでいきます。



「ビール製造工程の微生物管理向上への一貫した取り組み」が

「2021年度農芸化学技術賞」(日本農芸化学会)を受賞(SB)

サッポロビールは、(公社)日本農芸化学会から「ビール製造工程の微生物管理向上への一貫した取り組み」において「2021年度農芸化学技術賞*1」を受賞しました。この受賞は非熱処理の生ビールを安全・安心な状態でお客様のお手元までお届けするための、長年にわたるビール工場の微生物管理の精度を向上させてきた取り組み、具体的には「微生物のビール増殖性判定の簡便化・迅速化」「ビール工場向けの微生物検出システムの開発と運用」「新規ビール増殖菌の発見と同定による管理対象微生物の拡充」に関する継続的、総合的な当社の実績が評価されたことによるものです。同学会におけるビール醸造技術テーマでの同賞受賞は、2000年、2015年、2018年に続き4回目となります*2。



*1 1968年に設置された歴史ある賞。農芸化学分野において注目すべき技術的業績を上げた会員に授与される極めて権威ある賞

*2 過去3回の当社受賞テーマは以下の通り

- 2000年：抗酸化製造法の展開-ビール品質劣化の理論的解明からその応用まで
- 2015年：ビール泡品質向上への一貫した取り組み
- 2018年：ホップ品質の多角的な解析とその応用

オーガニックワイン*1「パラ・ヒメネス」「ビオマニア<オーガニック>ドイツ リースリング」新発売(SB)

「パラ・ヒメネス」のこだわり

オーガニックワインのパイオニアである「パラ・ヒメネス」では全て自社畑でぶどうをつくっており、また、世界のさまざまな考え方をを持った人にもおいしく楽しんでいただきたいという思いから、ヴィーガンにも対応したヴィーガンワイン*2づくりを行っています。



サステナブルなワインづくり

自然の中でつくられるプロセスを大切に、動物の力を借りながらぶどうづくりを行っています。また、「パラ・ヒメネス」では、ぶどうづくり以外にも、にんにくやたまねぎ、羊の乳からつくるチーズを100%オーガニックで生産し、そこから出た皮や茎などは動物たちの餌にするなど、循環型農業を確立しています。

*1 オーガニックワイン：有機栽培ぶどうからつくられた、EUの有機認証ワイン

*2 ヴィーガンワイン：ワインの原材料・製造工程において、動物性由来の物質を使用していないワイン

約束 1 『酒・食・飲』による潤いの提供

新価値創造

世界初*1! アンセリンで“尿酸値を下げる”

ノンアルコールビールテイスト飲料「サッポロ うまみ搾り」新発売(SB)

サッポロビールは、機能性表示食品のノンアルコールビールテイスト飲料(以下、ノンアルコールビール)である「サッポロ うまみ搾り」を、2020年6月より発売しています。

ノンアルコールビール市場は、ビールテイストカテゴリー*2において、健康志向の高まりなどを背景に継続して伸長し、中でも機能性表示食品の制度を用い、わかりやすく機能を訴求した商品が拡大しています。現在、日本において血中尿酸値が7.0mg/dl以上の方は1,000万人以上、成人男性の5人に1人の割合で存在していると推測されています*3。

本商品は、尿酸値を気にするビール好きのお客様のために開発された、尿酸値を下げる素材アンセリン*4を50mg配合し、アルコール度数0.00%、プリン体0(ゼロ)*5も実現した世界で初めてアンセリンで尿酸値を下げる機能を持ったノンアルコールビールです。また、アンセリンは尿酸値低減効果に加え、旨み成分に深く関係しており、本商品のおいしさにも寄与しています。大麦エキスを使用したリッチなおいしさと豊かな旨み、そしてすっきりとした飲み口が特長の、気兼ねなく食事を楽しめるノンアルコールビールです。

当社はこの商品を通じて、お客様の健康課題をサポートするとともに、ノンアルコールビールを含めたビールテイスト市場全体の活性化を図っていきます。



*1 尿酸値低減を訴求するノンアルコールビールテイスト飲料において(当社調べ 2020年2月)

*2 ビール、発泡酒、新ジャンル、ノンアルコールビールテイスト飲料

*3 2017年度時点。厚生労働省「国民健康・栄養調査」から推計値を算出

*4 遊泳能力の高いマグロ、カツオなどに多く含まれているペプチド。さまざまな機能があり、その中の一つが尿酸値低減効果

*5 100ml当たりプリン体0.5mg未満

「デジタルトランスフォーメーション(DX)注目企業2020」に選定(SH)

サッポロホールディングスは、DXの戦略的活用に取り組む企業として「DX銘柄」の「DX注目企業2020」に選定されました。「DX銘柄」は、経済産業省が中長期の企業価値向上や競争力強化に結び付く戦略的IT投資の推進に向けた取り組みの一環として、東京証券取引所と共同で選定するものです。

今回当社が選定されたのは、経営におけるDXの位置付けや、AIなどの新たなデジタル技術を活用した取り組み、RPA等による業務改革についていずれも生産性改革(効率化)による既存ビジネスの変革として高い評価を受けたことによります。

サッポロがつくったレシピ提案アプリ「うちレピ」

公募による選抜メンバーが、スタートアップ企業と協働で、社会課題解決に向けた新規事業創造を目指すビジネスコンテストを開催しました。事業化挑戦権を得たグループによって、「うちレピ*」のアプリが開発され、家事の負担軽減と食品ロス削減等に寄与しています。職種や年代、属性などの壁を越えた多様な人材が、主体的に新たな挑戦ができる場を提供した成果です。

* 購入時のレシート等を写真撮影することで家庭にある食材を登録でき、それらの食材のみを組み合わせることができるレシピや買い足す食材候補をAIが提案します(特許出願中)。



約束 1 『酒・食・飲』による潤いの提供

新価値創造

HOPPIN' GARAGE

～できたらいいな。を、つくろう。～(SB)

お客様との共創によるビールづくりを展開する新しいビールブランド。社外の魅力的な人々の人生ストーリーと当社の醸造技術を掛け合わせる「ストーリーブリューイング」製法で、多様性あふれるビールを生み出し、そのストーリーを味わいながら飲むという、これまでにないビールの楽しみ方をお届けします。2カ月に1回、新作ビールとそのビールに込められたストーリーを絵本でまとめたストーリーブックが届く定期便や、ゲストの魅力あふれる人生のストーリーから、新しいビールを生み出しちゃうかも?なラジオ番組も展開。これからもお酒と人との未来を創る一歩先の価値提案で「新しいお酒のある豊かな社会と生活」に貢献します。



 HOPPIN' GARAGE
<https://www.hoppin-garage.com/>

適正飲酒啓発とビール文化継承

日本のビール文化を発信し、豊かな生活に貢献する

日本で唯一のビール博物館である
 「サッポロビール博物館」

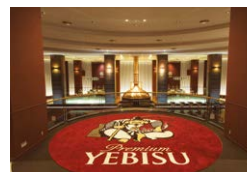
偉人たちが情熱を傾け誕生した日本のビールの歴史そのものを伝えるとともに、サッポロビールが受け継ぐビールにかけた想いやストーリーを発信しています。



エビスビール生誕地の

「エビスビール記念館」

1890年に東京・恵比寿で生まれた「エビスビール」。発祥の地で歴史と時代を超えたうまさ堪能できるミュージアムです。



(一社) 日本ビール文化研究会への協力

ビールのことを深く知り、もっとビールを好きになっていただくため、2012年より「日本ビール検定(通称:びあけん)」を実施しています*1。2019年までの受検申込者累計総数は約27,000人となり、近年ますます増加しています。



*1 2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止

「飲んだら、泳がない。」キャンペーン

サッポログループでは、お酒の特性を正しく理解していただけるよう、適正飲酒について広く伝えていくことが、酒類事業を展開する企業グループとしての社会的な責任であると考えており、さまざまな活動に取り組んでいます。その取り組みの一つとして、(公財)日本ライフセービング協会が主催する海水浴場などでの飲酒による事故を未然に防ぐ活動「飲んだら、泳がない。」キャンペーンに2015年より協賛しており、海水浴場での啓発活動の支援を継続してきました。2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により海水浴場でのキャンペーンは未実施でしたが、飲酒による事故防止を呼び掛ける動画を同協会から配信することとなり、グループとして支援しました。今後も適正飲酒に関わる課題の解決に取り組んでいきます。

※ 適正飲酒の啓発についてはP.13参照



4つの約束

約束1 『酒・食・飲』による潤いの提供

適正飲酒啓発とビール文化継承

サッポログループは、企業行動憲章に基づき「サッポログループの適正飲酒に関する基本方針」を定め取り組みを行っています。酒類事業を展開する企業として責任ある行動をとり、従業員への適正飲酒教育にも積極的に取り組んでいます。

適正飲酒に関する基本方針

「サッポログループ企業行動憲章」には、社会との関係において酒類に対する基本方針を次のように規定しています。

- ▶ 酒類の製造販売および広告宣伝においては、酒類の特性に鑑み社会的配慮をもって臨みます。
- ▶ 健康で明るい生活にふさわしい節度ある飲酒を呼びかけるとともに、20歳未満飲酒防止、飲酒運転防止、妊産婦飲酒防止などの取り組みを推進します。

この基本方針に則り、グループ各社では、事業で酒類を取り扱うサッポロビールとサッポロライオンを中心に、適正飲酒に取り組んでいます。

重点課題「適正飲酒啓発」の2030年中長期目標

「20歳未満飲酒」「飲酒運転」「アルコールハラスメント」等の不適切飲酒撲滅に向けた啓発活動を推進する。

責任ある飲酒国際同盟(IARD)(SB)

サッポロビールは2013年以降5年間にわたり、GAPG加盟団体であるビール酒造組合(2015年1月以降はIARDに加盟)のメンバーとして、このコミットメントに沿った適正飲酒への取り組みを展開しました。今後も引き続き取り組みを強化していきます。



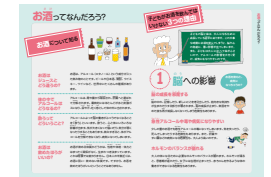
2020年の取り組みと成果

社会における不適切飲酒撲滅と適正飲酒啓発活動を推進しました。

社外 適正飲酒の啓発

社会に対する適正飲酒の啓発活動を継続的に推進

- 飲酒防止用小冊子「知っておこう お酒のこと」を小中学校へ配布
- 大学や企業に対し、適正飲酒セミナーを開催
- 海水浴場での飲酒マナー向上活動(「飲んだら、泳がない。」キャンペーン)の実施((公財)日本ライフセービング協会への支援)



社内 従業員への啓発強化

グループ全従業員に「適正飲酒に関する基本方針」を徹底

- グループ社員向けに飲酒習慣スクリーニングテスト(AUDIT)を実施
- サッポロビール営業担当者に対し「アルキラー(アルコールチェッカー)」と「テレマティクス(自動車運転監視システム)」による乗車前呼気中アルコール濃度0.00mg/Lを確認



事業活動

- サッポロライオンの各店舗においてアルコール専用グラスを導入し、清涼飲料との誤飲事故防止策を強化。2020年誤飲事故0件・飲酒運転0件を達成

酒類商品の純アルコール量(g)をWebサイトに表記開始(SB)

サッポロビールは2021年6月より、日本国内で製造・販売する主な商品に含まれる純アルコール量(g)をWebサイト上で表記しています。缶商品については、商品缶体への表記を2022年1月より順次開始します。お客様が商品に含まれるアルコール量を知ることにより、適正飲酒啓発の一助となることを願っています。

約束 2 社会との共栄



地域貢献

「自治体プロポーザルの受託による地域との共栄」への取り組み開始(SB)

サッポロビールでは、外食統括部FBS(フードビジネスサポート)グループ内にLG(Local Government)委員を配置し、「中長期的に地域の課題解決に貢献する」ことを目的に自治体事業への取り組みを開始しました。

サッポロビールのリソースを活用した地域課題の解決

LG業務では、業務用リソースを活用することで、各地域の行政とともに地域の課題解決(主に県産品の販路拡大&ブランディング)に向けて協働しています。サッポロビールでは包括連携協定など通じて、地域貢献の活動に取り組んでいますが、ボランティアや支援金では一過性のサポートとなってしまう可能性があります。継続的に地域課題解決に貢献するには、各自治体が公募する事業(プロポーザル案件等)に応募し、ともに成果を創出することが重要であると考え、2019年から取り組みを開始しました。

サッポロビールの業務用事業では、外食企業のメニュー・業態開発支援の一環として食材の紹介も行っており、そこに販路を拡大したい生産者をマッチングすることは、生産者、生産地域を活性化させたい自治体、魅力的な商品を探したい飲食店の三方全てにメリットがあると考えています。この活動は営業活動としての付加価値提案にもつながることに加えて、受託による売上創出もあるため、社内における価値創出にもつながっています。2021年春には、外食企業に販路を拡大したい千葉県の生産者が集まり、首都圏の外食企業と商談を行う「ちばの大地と海の恵み 商談会」(千葉県)の運営業務を受託しました。生産者と飲食店を直接つなぎ、生産者に飲食店の声を届け、メニュー開発やドリンク提案を協働して行うことで、継続的な取引が可能となる点を評価され、受託につながりました。

そのほか、宮城・福岡でも同様の事例があります。「普段の業務をほかの環境から見ると、価値のある活動かもしれない」「もっと価値に変えられるのではないか」と考えながら、地域との共存共栄のために今後もLG業務を推進していきます。



サッポロビール株式会社
FBSグループ
LG委員リーダー
平野 武樹

連携協定を通じた社会課題の解決

サッポログループは創業以来ゆかりのある土地や地域社会との「つながり」を大切にしてきました。2007年の北海道との包括連携協定締結を皮切りに、2020年2月には福島県と協定を締結しました。全国の自治体や大学と締結した協定の数は延べ62件(2020年12月現在)となっています。今後も地域への貢献やまちづくり、防災など、さまざまな社会課題解決に向けた取り組みを継続していきます。



「箱根駅伝」を35年にわたって応援

日本のお正月の風物詩ともいえる「箱根駅伝」。サッポログループでは1987年から35年にわたり「箱根駅伝」を応援しています。例年、グループ従業員が芦ノ湖の往路フィニッシュ地点付近でチャリティー販売を実施し、その売上の一部を神奈川県箱根町のトラスト基金に贈呈しています。箱根駅伝を支える選手、関係者とその家族、また周辺地域とのつながりを大切にしながら、これからも将来にわたり響をつないでいきます。

※ 第97回大会(2021年1月開催)は新型コロナウイルス感染拡大によりチャリティー販売は中止となりました。写真は第96回大会(2020年1月開催時)のものです。



約束2 社会との共栄

地域貢献

北海道を元気にする共創活動「ほっとけないどう」(SB)

サッポロビールは、「ふるさとのために、何ができるだろう?」をスローガンに創業の地である北海道の行政とも協働し、地域活性化への貢献を目指す取り組みを続けています。

その取り組みの一つである「ほっとけないどう」は、新たなプロジェクトにチャレンジしたい「挑戦者」と、その活動を支援したい「応援者」を「カンパイ★ファンディング*」でつなぐ仕組みとして、北海道への貢献を目的に2019年6月にスタートしました。

2020年8月には、その売上の一部を新型コロナウイルス感染拡大により北海道庁で設立された基金「エールを北の医療へ!」に寄付しました。また、これまでに45名の「挑戦者」にこの取り組みを通じて支援してきました(2021年6月時点)。創業の地、北海道を元気にする活動をこれからも継続していきます。

*「応援者」が購入した缶ビールなどのドリンク代金の一部を「挑戦者」の活動へ資金協力できる仕組み。



アイヌ文化振興を継続支援(SB)

サッポロビールは、「サッポロ クラシック UPOPOY (ウポポイ) オープン記念缶」を2020年4月に北海道で数量限定発売しました。この商品は、北海道白老町ポロト湖畔にオープンしたアイヌ文化復興・創造の拠点であるウポポイ(民族共生象徴空間)を記念して発売したものです。



ウポポイはアイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」を意味しています。パッケージは、ウポポイの公式ロゴマークとローマ字の「UPOPOY」を大きく表示し、その周りにオリジナルのエンブレムをデザインしています。当社はこの商品を通じて、ウポポイ(民族共生象徴空間)の話題喚起やアイヌ文化の理解および北海道の観光促進に貢献しました。

災害支援

近年、毎年のように自然災害が発生していますが、2020年には下記の取り組みを行いました。

令和2年7月豪雨

サッポログループでは、災害発生後いち早く、飲料水等の物資提供を行い、併せて支援金・従業員募金の寄付を実施し、被災者への支援と被災地の復旧にお役立ていただきました。

オーストラリア森林火災(SB)

サッポロビールはオーストラリアで発生した森林火災の被害に対して、1万豪ドル(約75万円)をオーストラリア赤十字社に寄付しました。この寄付は、世界的なワインの名産地としても知られるオーストラリアの森林火災被災地での救援活動、復興支援のために、輸入ワインの売上の一部から行ったものです。

約束2 社会との共栄

地域貢献 — 東北復興支援の継続

女川小学校への プログラミング教材購入支援 (SH)

震災からの復興が進んでいる宮城県の女川町立女川小学校で使用するプログラミング教材購入費を贈呈しました。女川町立女川小学校のプログラム教育の取り組みに賛同し、未来を担う人財の育成に役立てていただくことを願い、支援しました。



「SENDAI 光のページェント」に 2012年から継続支援 (SH)

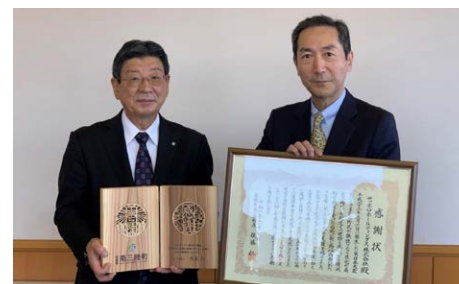
「2020 SENDAI 光のページェント」で使用するLED電球の購入資金として、約4万球相当分の200万円を寄付し、併せて、仙台市の郡和子市長へ同イベントの支援内容について報告を行いました。



写真提供：SENDAI 光のページェント実行委員会

南三陸町からの感謝状 (SH)

東日本大震災で甚大な被害を被った宮城県南三陸町の佐藤町長より、サッポログループの震災後の支援活動に対して感謝状と南三陸杉でつくられた記念盾を贈呈していただきました。



名取市「閑上わかめ」 プロジェクト支援 (SH)

包括連携協定を締結している宮城県名取市の宮城県漁業協同組合仙南支所(閑上)に対し、「閑上わかめ」養殖プロジェクト推進のため、養殖設備購入資金の一部として200万円を寄付しました。



株主優待制度を活用した 東北復興支援 (SH)

2020年の株主優待制度を通じた株主様からの寄付金152万8,000円にサッポロホールディングスより同額を加えた305万6,000円を、復興に取り組む3ヵ所に寄付しました。2013年より継続しています。

気仙沼市民のシンボル三代目「立ち恵比寿像」再建支援 (SH)

大漁と航海安全を祈念し「おえびすさん」と呼ばれて気仙沼市民に親しまれていた内湾のシンボル二代目「立ち恵比寿像」。震災で流失しましたが、気仙沼市神明崎に三代目の像建立を支援しました。



「伊達麦茶」の売上の一部を 宮城県へ寄付 (PS)

東日本大震災から10年を迎える節目の年に、「伊達麦茶」の売上金の一部を「東日本大震災みやぎこども育英募金」に寄付することを表明しました。



約束 2 社会との共栄

地域貢献 — 新型コロナウイルス感染拡大防止対策への支援活動

※ 2020年3月～2021年5月までの主な活動

感染拡大防止・リスク低減のための従業員対応

手洗い等の実施、個々の体調管理徹底に加え、異常時の会社連絡指示、外出自粛、「密」回避、オフピーク通勤の推奨など、人との接触機会の低減に取り組んでいます。

また、各事業会社・各部署の業務特性にあわせながら、テレワークの推奨など、出勤者の7割削減にむけた取り組みを推進しています。

地域社会との連携・協力

消毒用エタノール代替品としての「高濃度エタノール製品（60vol%以上）」の製造・提供

消毒用アルコール不足の状況を受け、各行政機関の指導のもと高濃度エタノール製品（60vol%以上）を製造し、サッポロビールおよびポッカサッポロの事業拠点や地域包括連携協定等を踏まえ、各行政機関を通じた医療施設への高濃度エタノールを提供

「サッポロ SORACHI1984カンパイ★ファンディング缶」の一部売上金の寄付活動

・ サッポロビールの地域活性化活動「ほっとけないどう」の一環である「カンパイ★ファンディング」の仕組みを利用し、ネット限定発売商品の売上金の一部を、ほっかいどう応援団会議の参加企業として北海道ふるさと寄付基金「エールを北の医療へ!」へ寄付

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームを通じた飲料水の提供

・ ポッカサッポロの飲料水を提供し、NGO活動支援に協力

事業場近隣医療関係施設への医療従事者向け支援物資の提供等

- ・ 「サッポロビール園」（北海道）より、人気メニューのお弁当を合計500食無償提供
- ・ 「サッポロファクトリー」（北海道）、「GINZA PLACE（銀座プレイス）」（東京都）、ブルーシール（沖縄県）の施設など、サッポログループの関連施設では、医療従事者への感謝の意を表し「LIGHT IT BLUE キャンペーン」に参加
- ・ サッポロビール千葉工場およびポッカサッポロより、事業活動拠点周辺地域および関連先に飲料水・スープ・機能性食品等を無償提供
- ・ （一社）レモネードスタンド普及協会を通じて支援している「JCCG」（日本小児がん研究グループ）の病院会員施設80カ所に、レモン飲料およびレモン飲料の売上金の一部を寄贈
- ・ 医療従事者を「食」で応援する支援団体WeSupportに参画し、飲料水を寄贈
- ・ 目黒区「心にさくらプロジェクト」に協力
- ・ ポッカサッポロより、愛知県豊田市の豊田地域医療センターにカップ入りスープを、また愛知県北名古屋市の済衆館病院に、インスタントスープを寄贈

- ・ ポッカサッポロ群馬工場より、地域の医療機関にカップ入りスープを寄贈
- ・ ポッカサッポロより、NPO法人Philiaを通じて、東京都内の医療機関にカップ入りスープを寄贈

事業場近隣住民のお子様向け支援物資の提供

- ・ 「恵比寿ガーデンプレイス」でお子様に向けた食事支援として、合計250食を無償提供
- ・ ポッカサッポロ仙台工場より、「いわぬま・こども食堂+（プラス）」へスープ等を無償提供
- ・ ポッカサッポロより、愛知県および名古屋市の児童福祉施設に絵本「なんじゃ?にんじゃ?レモンじゃ!」を、また北名古屋市の保育園等にレモン飲料水を、札幌市内の保育所等に、北海道夕張市より購入した「夕張メロン」と「北海道夕張メロンソーダ」を寄贈
- ・ ポッカサッポロより、コロナ禍での熱中症対策として、北名古屋市の児童やごみ収集職員に「富士山麓のおいしい天然水」を、また静岡県磐田市の児童や消防署職員に「ポッカレモン」や「富士山麓のおいしい天然水」を寄贈
- ・ ポッカサッポロより、東京農業大学を通じて、コロナ禍における子どもの食支援として全国198カ所の子ども食堂団体へ飲料商品を寄贈

サッポロライオンの一部店舗でのテイクアウト・デリバリー対応

- ・ 外出自粛下のお客様へのお食事提供として、デリバリーサービスを導入
- ・ 新しい生活様式に合わせた宴会コースを新設し、サービスの提供を開始

飲食店営業活動支援の取り組み

- ・ サッポロビールは、外食企業のECビジネスを応援する外食専門ECストア「#星に願いを」をオープンし、飲食店の収益拡大を支援
- ・ サッポロビールおよびサッポロ不動産開発は、渋谷区の飲食店約560店舗（2021年5月現在の）情報を掲載する「渋谷区テイクアウト・デリバリー MAP」の取り組みに協賛

約束2 社会との共栄

地域貢献

— 新型コロナウイルス感染拡大防止 対策への支援活動

<海外>

スリーマン社(カナダ)での地域社会および

レストラン事業団体の活動支援に向けた寄付

- ・地域住民支援活動として、世界的な慈善団体である United Way に対し、スリーマン社各事業場所在地域で寄付を実施
- ・レストランのテイクアウトサービスの許認可に向けた活動支援および活動資金援助
- ・Vernon Brewery社と近隣のOkanagan Spirits社との協力により、市場から返品されたビール等を蒸留して手指消毒用アルコールを生成し、近隣医療機関へ寄付する活動を開始。

サッポロ USA社(アメリカ)での

レストラン事業関連2団体への寄付

- ・レストラン事業関連2団体(World Central Kitchen、National Restaurant Association Educational Foundation)へ寄付を実施

持続可能な調達

サプライヤーとのサステナビリティ調達について

サッポログループは、「サッポログループ調達基本方針」に加え、2018年に「サッポログループ サプライヤーサステナビリティ調達ガイドライン」を策定し、サプライヤーの理解や協力を得ながらサステナブルな調達に取り組んでいます。このガイドラインでは、「安全・品質」「コンプライアンス」「人権・労働」「環境保全」「社会との共栄」「アルコール関連問題」の6つの主題を設定しており、サプライヤーと双方向のコミュニケーションを図り、協働でサステナビリティに取り組むことによって、健全で豊かな社会の実現を目指しています。

サプライヤー向けマーケティング方針説明会では、サッポログループのサステナビリティ調達について説明や解説を行っています。



サプライヤーとの協働

SB、PS

毎年1回、サプライヤーに対して調達基本方針に関する説明会を行っています。説明会では、サプライヤーにおけるサステナビリティの具体的な取り組み推進のための「サッポログループ サプライヤーサステナビリティ調達ガイドライン」についての理解を深めていただき、協働で推進できるようお願いしています。また、グループ会社においては、下請代金支払遅延等防止法をはじめとする関係法令の周知徹底を図っています。

SLN

サプライヤーに公正・公平なビジネスの機会を提供し、定められた方針や手順に従って調達を行っています。また、「安全・安心・本物志向」への営業体制を強化し、原材料・商品のトレーサビリティ・品質・価格の選別を徹底するとともに、生産現場、商品規格内容、物流システム・サービスなどの確認を継続しています。

約束 3 環境保全



サッポログループ環境ビジョン2050

(2019年9月20日策定)

大地が育む自然の恵みに感謝し、サッポログループ社員一人ひとりが、積極的に環境保全に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します

1. 脱炭素社会の実現

- ▶ 自社拠点でのCO₂排出量ゼロを目指します
- ▶ 自社拠点以外のバリューチェーンにおけるCO₂排出量の削減に努めます

2. 循環型社会の実現

- ▶ グループ全体で、事業に関わるすべての資源の3R*に努めます
 - ・循環型社会に対応した容器包装の100%使用を目指します
 - ・工場での水使用量削減に継続的に努め、持続可能な水資源利用を実現します

* Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル) の3つのRの総称

3. 自然共生社会の実現

- ▶ 大麦・ホップの研究開発を通じて持続可能な調達に貢献します
- ▶ 持続的に自然と共生できる豊かな時間と空間を感じるまちづくりに貢献します

サッポログループ容器包装ビジョン

(2019年7月策定)

当社は「潤いを創造し豊かさに貢献する」という経営理念のもと、サステナビリティ経営を推進するために、サステナビリティ重点課題を抽出し、ステークホルダーの皆様との4つの約束を定めています。「環境保全」の約束においては、重点課題に「3Rの推進」を掲げており、本ビジョンは、その具体的な取り組みの一つです。

本ビジョンに沿って、事業活動における容器包装の3Rの取り組みを加速させることで、持続可能な社会の実現を目指します。

2050年 長期ビジョン

- ▶ 循環型社会に対応した容器包装の100%使用を目指します

中期ビジョン

- ▶ 容器包装のリデュース（軽量化・簡素化）を維持・拡大します
- ▶ 再生可能材料の利用を拡大し、容器包装材料の枯渇性資源依存を低減します
- ▶ 社外との連携・協調を深め、持続可能な循環型社会の構築に貢献します

「循環型社会に対応した容器包装」とは、従来からリサイクル、リユースできる容器包装として継続的に使用している缶・びん・樽などに加えて、再生PET樹脂、生分解性プラスチック、バイオマス素材の利用、FSC®森林認証紙等を指します。グループの事業活動において使用する容器包装を、それら「循環型社会に対応した容器包装」に100%変更していくことで、容器包装による環境負荷の低減を実現します。

加えて、物流や素材調達を踏まえた製品ライフサイクル全体における環境配慮とユーザビリティ確保までを考慮することが必要と考えており、また、これらを実現させるために、環境に配慮した設計、素材や容器包装の研究開発、および製造環境の整備・拡充の強化に取り組んでいきます。

約束3 環境保全

地球温暖化防止・3Rの推進

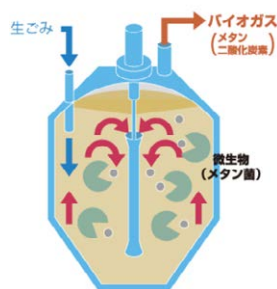
「恵比寿ガーデンプレイス」の環境負荷低減への取り組み(SRE)

CO₂排出量ゼロを目指した取り組み

「恵比寿ガーデンプレイス」では、省エネ施策の確実な実行や再生可能エネルギーの導入の検討により、CO₂排出量ゼロに向けた取り組みを行っています。東京都の「地球温暖化対策計画書制度」に則り、オフィスビル空調機の運転方法改善に加え、窓の遮熱断熱性能の高いLow-Eガラス化や、LED照明への段階的な切り替え、機器更新に合わせた高効率・再エネ設備の導入による省エネ推進に取り組んでいます。再生可能エネルギー導入の第一歩として、「恵比寿ガーデンプレイス」にある自社オフィスや施設共用部などの電力について、2022年までに再生可能エネルギー由来への切り替えを目指します。

廃棄物削減の取り組み 生ごみのリサイクル

「恵比寿ガーデンプレイス」では、施設内の飲食テナントから排出される生ごみは可燃ごみとして焼却せずに、微生物(メタン菌)で生ごみを分解しメタンガスを主成分とするバイオガスを生成、回収する技術を導入している企業にリサイクル処理を委託しています。回収したバイオガスはガスエンジンで発電し、電気と熱のエネルギーを生み出し、さらに都市ガス精製設備で都市ガスをつくることも可能です。リサイクルにより生成されるものが電気、熱、都市ガスであるため、都市部での需要は安定しており、将来的にも需要不安のない持続可能なエネルギーの創出とCO₂排出量削減を実現しています。これからも3Rを推進し、環境に優しいまちづくりに努めていきます。



国内製造ワイン720mlPETボトルにリサイクル素材を導入(SB)

「ポリフェノール/有機酸でおいしさアップシリーズ」「うれしいワインシリーズ」などに使用している720mlPETボトルについて、2021年3月以降製造分より、再生PET樹脂を100%使用した素材に順次変更しています。この取り組みは、当社国内製造ワインPETボトル製品のうち4割程度*1が対象になり、年間のCO₂排出量で約44t(従来比で約20%*2)の削減が見込まれます。商品ラベルには当社独自の「再生PET樹脂使用」マークを表示しており、そのほかの国内製造ワインPETボトルについても、循環型社会に対応する容器包装素材への変更の検討を進めています。



「濃いめのレモンサワーの素」などに軽量瓶を導入(SB)

「濃いめのレモンサワーの素」「男梅サワーの素」「ウメカク果実仕立ての梅酒カクテルシリーズ」に使用している500ml瓶について、2021年リニューアル分より軽量瓶に順次変更しています。この取り組みは、当社国内RTS*3製品のうち約9割程度*1が対象となり、輸送効率改善など年間のCO₂排出量で約588t(従来比で約20%*4)の削減が見込まれます。



*1 本数ベースで算出

*2 当社国内製造ワインPETボトル製品の2019年販売実績数に基づくCO₂排出量を従来基準として算出

*3 Ready to Serveの略。氷やソーダなどで割るだけで楽しめるお酒

*4 「濃いめのレモンサワーの素」「男梅サワーの素」の2020年販売実績数に基づくCO₂排出量を従来基準として算出

約束 3 環境保全

地球温暖化防止・3Rの推進

紙製飲料容器「カートカン」(PS)

ポッカサッポロは、1996年より飲料業界に先駆けて、間伐材を含む国産材を30%以上使用した「カートカン」を採用しています。また、2004年に設立された紙製飲料容器の普及団体「もりかみ協議会（森を育む紙製飲料容器普及協議会）」に発足当初より参画し、身近なエコ活動ツールとして「カートカン」の普及に努めています。

「カートカン」は間伐材を使用することによって、森林保全・育成につながり、森林におけるCO₂の吸収を促すことで、地球温暖化防止に寄与しています。また、売上金の一部を「緑の募金」に寄付しており、森林整備を行うボランティア団体などの活動資金として活用されています。近年の環境意識の高まりから、プラスチック製容器以外の飲料を希望される場面が増えてきたことを踏まえ、2020年2月には、企業・団体の皆様が会議や来客用にご利用いただくことをコンセプトとした新商品「旨みまろやか緑茶」を発売し、ご好評いただいています。



PETボトル商品におけるリサイクル原料の使用割合を2030年までに50%とする目標策定(PS)

サッポログループが掲げている持続可能な社会の実現に向けた目標「サッポログループ容器包装ビジョン」に沿った「循環型社会に対応した容器包装の100%使用」を達成するため、当社が販売するPETボトル商品においてリサイクル原料の使用割合を2030年までに50%とする目標を策定し、取り組みを推進しています。

ラベルレスPETボトル商品

「おいしい炭酸水ラベルレス」(PS)

近年お客様の環境意識が高まっており、脱プラスチックへの取り組みが企業にも求められている中、2021年5月よりラベルレスのPETボトル入り無糖炭酸水「おいしい炭酸水ラベルレス」を一部の通販サイト限定で発売しています。環境負荷低減と利便性向上の両立という新しい価値を創出・提供していきます。



「富士山麓のおいしい天然水 リサイクルPETボトル・ハローキティラベル」(PS)

より手軽な商品を通じてリサイクルPETボトルを知っていただきたいという想いから、当社で販売している「富士山麓のおいしい天然水」について、再生PET樹脂を100%使用したリサイクルPETボトルを採用し、SDGsへの取り組みを応援している「ハローキティ」とコラボレーションしました。公式Webサイトでは、「使用済みPETボトル商品が生まれ変わるまで」等をご紹介します。

「富士山麓のおいしい天然水
リサイクルPETボトル・ハローキティラベル」公式Webサイト
<https://www.pokkasapporo-fb.jp/sdgs-water/>
(※数量限定のため、無くなり次第終了)

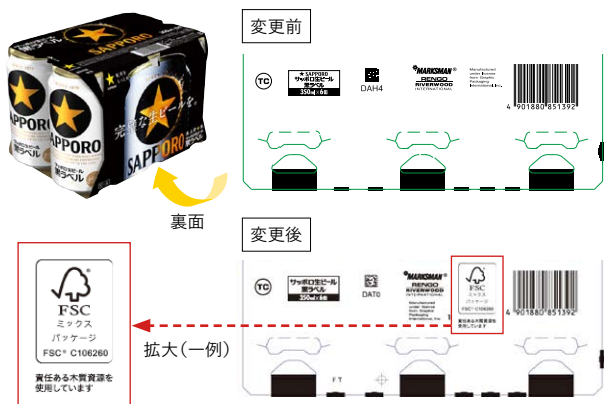


約束3 環境保全

地球温暖化防止・3Rの推進

「FSC®認証」マーク表示の紙製包装資材を使用開始(SB)

国内製造のビールテイスト・RTD製品の6缶または4缶パックにおいて、国際的な森林管理認証である「FSC®認証」マークを表示した紙製包装資材を、2020年10月製造分の新商品、リニューアル品から順次使用しています。

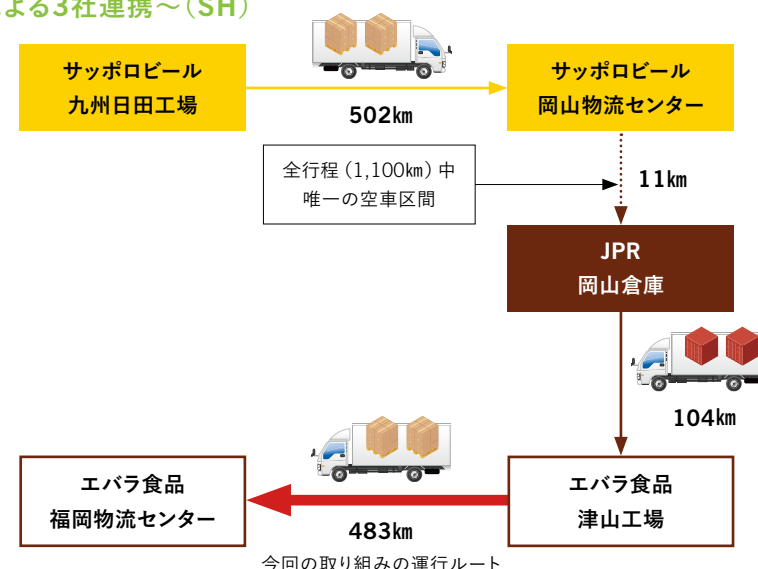


※ ライセンス番号：FSC®N003419

地方幹線物流・トラックドライバーの働き方改革を共創

～エバラ食品・JPR・サッポロホールディングスによる3社連携～(SH)

サッポロホールディングスは、エバラ食品工業(株)、日本パレットレンタル(株)(JPR)との3社共同で、岡山エリアと大分・福岡エリア間の共同輸送を開始しました。従来、3社はそれぞれ片道の輸送を各社で手配して製品を陸送していましたが、近年の少子高齢化、トラックドライバー不足から岡山エリアと大分・福岡エリア間約500km以上の片道の運行をそれぞれで確保することが困難になると予想されるため、3社で協業して岡山と大分・福岡エリア間の複数の輸送ルートを組み合わせて空車区間を減らし、輸送を効率化する「ラウンド運行」により地方の幹線輸送の安定確保を図ります。



環境負荷低減

テスト期間では、大分から岡山を経て福岡に戻るルートを3日でラウンド運行し、行き荷・帰り荷ともに固定化させることで、利用率を示す実車率が一般的に約40%(国土交通省発表)とされるどころ、99%以上を実現し、個社単位での輸送時より、全体でCO₂排出量を約15.2t低減させています。今回の取り組みにより、輸送の効率化を最大化するとともに、環境負荷低減を実現します。

労働環境の改善

運行ルート、運行スケジュール、輸送商品、車両を固定化し、フォークリフトによる機械荷役を徹底することで、ドライバーの労働環境の改善と作業負荷軽減を図ります。運転以外の手荷役などの作業をなくすことで、女性や高齢ドライバーなど幅広い人に活躍してもらえる環境を整備していきます。

4つの約束

約束3 環境保全

自然との共生

コープさっぽろとの北海道の地球環境保全への取り組みを支援(SB)

北海道と包括連携協定を結ぶサッポログループと生活協同組合コープさっぽろとのCO₂排出量削減を目的とする共同企画「北海道の森を元気にしよう(現在は!「北海道の森に海に乾杯!」)」キャンペーンを2013年より実施しています。2020年は、ホクレン農業協同組合連合会、カルビー(株)様にも参画していただきキャンペーンを拡大し、大変好評です。サッポロビール製品、ポッカサッポロ製品の対象商品をお客様にご購入いただくことでカーボン・オフセットし、北海道内の森林保全活動に貢献します。さらに、売上の一部は「コープ未来(あした)の森づくり基金」のほか、北海道内で展開するカーボン・オフセットや排出権購入プロジェクトに寄付しています。今後も北海道内の森林保全活動に貢献することで、森とつながる海の保全にも貢献していきます。



生物多様性協定更新(SB)

サッポロビールは、長野県と2017年に締結した「生物多様性保全パートナーシップ協定」を2023年5月まで更新しました。長野県は2050年の中長期目標「生物多様性ながの県戦略」を掲げ、県鳥であり絶滅が危惧されているライチョウの保護回復事業計画に県民ぐるみで取り組んでいる活動に共感し、ライチョウの保護に向けた普及啓発と体制構築を目的としたこの協定を締結しました。締結から3年を迎えた2020年、継続的な応援を目的として同協定を更新することとなりました。

また、2016年より毎年、サッポロ生ビール黒ラベル「信州環境保全応援缶」を長野県で数量限定で発売しています。本商品の売上に対して1本につき1円を長野県に寄付し、長野県の環境保全活動を継続的に応援しています。



グランポレール北海道北斗ヴィンヤードの地域への貢献(SB)

地球温暖化や気候変動の影響もあり、ワイン用ぶどうの栽培適地が次第に北上しています。サッポロビールは将来を見据え、2018年6月、北海道北斗市にグランポレール北海道北斗ヴィンヤードを開園しました。2019年より第1期の植栽を開始しており、2021年には初収穫を予定しています。

このヴィンヤードは、1896年にトラピスト修道院によって開墾がスタートした土地で、サッポロビールのワイン用自社畑としては最大面積を有し、降雨量や土壌など、高級ワイン用ぶどうの栽培に最適な諸条件を備えており、日本ワイン「グランポレール」ブランドの未来を担うヴィンヤードです。

また、サッポロビールと日本航空(株)は2021年より共同で、北斗ヴィンヤードで、中長期的に地域振興に貢献しています。第1回の活動として、2021年4月にワイン用ぶどうの苗木の植え付けを実施しました。今後は、継続的に北斗ヴィンヤードへJALふるさとアンバサダー、JALふるさと応援隊を派遣し、約2ヵ月に一度、ワイン用ぶどう栽培作業を行います。



「グランポレール」は、サッポログループの原点となる「ものづくり」を体現する事業ともいえます。日本が誇る、世界的なラグジュアリーブランドとなるよう盛り上げていきます。

約束 4 個性かがやく人財の輩出



健康経営

サッポログループ健康創造宣言

サッポログループは、グループの人財の心身の健康は、従業員・その家族・会社の幸せを創造することにつながるものと考え、2017年8月に「サッポログループ健康創造宣言」を策定しました。グループ全従業員の健康増進に向けた取り組みを強化していくことで、長期経営ビジョン「SPEED150」の達成を目指します。

サッポログループ健康創造宣言

1. 事業の担い手である従業員は健康増進に取り組み、会社の成長につなげます
2. 健康な従業員が「酒・食・飲」の事業を通して、お客様の心身の健康や幸せに寄与します
3. 健康増進に積極的に取り組むことで、働く場としての魅力を高め、企業の存続につなげます

健康経営中期計画(2019~2022年)

健康投資	健康投資効果			健康経営で解決したい経営課題
	指標① 施策取り組み	指標② 意識変容・行動変容	指標③ 健康最終目標	
	アウトプット指標	パフォーマンス指標	アウトカム指標	
いのちを守る	定期健康診断受診徹底	緊急治療対象者100%医療機関受診	健康意識向上	人財の成長
健康を増進する	生活習慣病検診時間・費用支援	生活習慣病検診40歳以上100%受診	運動習慣定着	
	禁煙推奨	喫煙者へのアプローチ100%	健康数値改善	ブランド力向上
違いをつよさにする	エリア保健師整備活用	保健師指導回数年間1,500件	喫煙率低下	
		良い習慣化チャレンジ	キャンペーン参加者80%以上	働きやすさと働き甲斐の向上
	研究部門との連携企画	グループ商品連動企画年1回以上	エンゲージメント向上	
	総合アンケートでの分析・活用	総合アンケート回答率90%以上		

2022年目標数値

緊急治療対象者医療機関受診率	100%
40歳以上生活習慣病健診受診率	100%
日常生活歩数	男性9200歩 女性8300歩
運動習慣者率(1回30分、週2回以上)	男性39% 女性35%
睡眠による休養確保	90%
朝食欠食率	15%以下
喫煙率	12%以下

「健康経営優良法人2021(ホワイト500)」に認定(SH、SB、PS)

サッポロホールディングス、サッポロビール、ポッカサッポロは、「いのちを守る」「健康を増進する」だけでなく「違いを強さにする」視点で、健康増進につながる活動を強化しており、「健康経営優良法人 大規模法人部門」認定法人の中で、健康経営度調査結果の上位500法人のみが認定される「ホワイト500」の認定を受け、上位10%以内の評価をいただきました。

また、健康経営優良法人中小規模法人部門では、ヤスマ(株)が「ブライト500」の認定を受けました。



「がんアライアワード2020」受賞(SB、PS)

サッポロビールとポッカサッポロは、がんと就労問題に取り組む民間プロジェクト「がんアライ部」主催の「がんアライアワード2020」において、それぞれ「ゴールド」と「シルバー」を受賞しました。サッポロビールは3年連続の「ゴールド」受賞、ポッカサッポロは2年連続の「シルバー」の受賞となります。

約束 4 個性かがやく人財の輩出

ダイバーシティ・人権

違いを強さに

一人ひとりが個性をかがやかせ、仲間と磨き合い、それぞれの違いを認め、強さとするのが、経営理念の実現につながると考えています。

サッポログループでは、「ダイバーシティ&インクルージョン推進グループ」を設置して推進に取り組んでいます。あらゆる多様性（性別・年齢・障がい・国籍・学職歴・雇用形態・価値観・性的指向・性自認等）を尊重し、多様な発想・考え方を有する人財を認め活かし、一人ひとりの能力が最大限発揮できる環境の整備を強化していきます。



主な取り組み

女性活躍推進

「女性が継続して働きがいをもって活躍していることが当たり前」という状況を目指して、女性社員を社外セミナー・異業種交流会などへ積極的に派遣し、自分らしいリーダーシップのあり方やキャリア形成の支援を行っています。また、さまざまな意思決定や新たな価値創出などにより企業経営に影響力を発揮できる立場に就く女性社員を積極的に育成するなど、人財のパイプライン構築を重要課題として取り組んでいます。

治療と仕事の両立支援

がん治療と仕事の両立に向けた支援と、がんを経験した社員が安心して働ける環境整備を目指して社内コミュニティ「Can Stars (キャンスタース)」を発足し、ピアサポートや他企業等との交流など活発な活動を行っています。

マネジメント力強化

経営層を含む管理職が「心理的安全性」や「1on1実践」などをテーマにした研修に参加し、多様な人財の理解を深め、一人ひとりの力を引き出すマネジメント力の強化に努めています。

キャリア形成支援

ライフキャリアセミナーやキャリアカフェ、キャリアサポート制度などを通じ、「自分のキャリアは自分で切り拓く」をスローガンに、自分らしいキャリアを形成する支援を行っています。また、キャリア形成支援金制度、公募型研修などで幅広い学びの機会を提供しています。

「えるぼし（2段階目）」認定を取得（PS）

ポッカサッポロは、2020年に女性活躍推進企業認定である「えるぼし（2段階目）」認定を取得しました。



女性活躍推進に優れた企業を選出する「準なでしこ」に選定（SH）

サッポロホールディングスは、経済産業省・東京証券取引所が共同で女性活躍推進に優れた企業を選出する「準なでしこ」に2021年選定されました。



女性管理職セミナー（PS）

女性社員が管理職を目指したり、自分らしいキャリアを考えることを促進するため、2020年12月に「女性リーダーと考える これからの生き方・働き方」というオンラインのセミナーを開催しました。当日は女性管理職の3名が自身のキャリアや働き方、仕事やプライベートに関する考え方などを率直に語り、参加者との対話を行いました。参加者からは、キャリアの転機や困難なことへの対処方法などがわかり、管理職の仕事のイメージがつかめたという感想があり、全体的に高い評価を得ました。将来的な女性管理職比率の向上に寄与する取り組みと考えています。



約束4 個性かがやく人財の輩出

ダイバーシティ・人権

人権方針策定(SH)

サッポロホールディングスは、事業を行う過程で直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、私たちのビジネスに関わる全ての人々の人権を尊重するために「サッポログループ人権方針」を定め、これを指針として人権尊重の取り組みを推進しています。

特に重要な人権課題について(プライオリティ)

強制労働と児童労働: 私たちは、各国法、各社内規定などにに基づき、強制労働および児童労働のない、現地に根ざした適切な人事管理に努めています。

差別とハラスメント: 私たちは、個人の人権と多様性(ダイバーシティ)を尊重します。人種、民族、国籍、信条、性別、宗教、障がいの有無、性的指向、性自認などを理由とするあらゆる差別およびハラスメントを排除して、公正な処遇がされる職場環境をつくります。

結社の自由と団体交渉権: 私たちは、事業活動を行う国・地域において適用される法令に従って、結社の自由と団体交渉の権利を尊重します。結社の自由や団体交渉の権利が国際人権基準を満たさない各国・各地域の法令により制限されている場合は、従業員との対話の代替手段を確立することによってこれらの権利を尊重する方法を追求します。

労働安全衛生: 私たちは、職場の安全・衛生に関する法令・ルールとその運用状況を確認し、安全で健康的な職場環境をつくります。

労働時間と賃金: 私たちは、事業活動を行う国・地域において適用される労働時間と賃金に関する全ての法令を遵守します。従業員が最低限の生活を満たすことができる賃金の実現に努めます。

自律と挑戦: 私たちは、一人ひとりの強みを最大限に活かし、心身ともに健康で、元気で明るく前向きなエネルギーをもって自律的に新たな領域に挑戦することを目指します。

人財開発・育成

新人事制度導入(SH、SB、PS)

人財を強化し、成長を促進するために、複数の事業会社の人事制度の抜本的な改革を行いました。多様な人財の主体性や挑戦意欲を引き出し、「管理」から「支援」、「年功廃止」から「あらゆる人財の活躍」を目指し、さまざまな取り組みを行っています。

管理職の職務等級の導入

職務の業務難易度・業績責任の重さなど、複数の項目によって各職務のグレードを決定します。年功的な要素を排除し、早期抜擢・適所適材を実現し、柔軟な人事運用と組織の活性化を図ります。

考課ランク(レイティング)の廃止

評価方法を抜本的に見直し、役割に応じた行動、組織ビジョン達成への成果・貢献度、挑戦性を評価軸に育成と評価を結び付けた運用をします。

育成評価制度

評価は、単に処遇や役割等級の決定にのみ使われるものではなく社員の成長を促すものと位置付け、育成評価制度では「成長」にフォーカスし、一人ひとりの成長によって組織を発展させることを目指しています。1on1ミーティングや職場のマネジメント層が一堂に会して各メンバーの育成課題と育成方針について話し合う人財育成会議を導入するなど、メンバーの成長を支援しています。

ストレッチゴール

自ら掲げたチャレンジングな目標にいかにか果敢に取り組んだかを評価することで、失敗を恐れず挑戦する風土を醸成します。必ずやらなければならないこと(MUST)は当然行い、自分を成長させ(CAN)、自身が仕事を通じて実現したいこと(WILL)を「組織の挑戦」を踏まえて設定します。常に高い目標を目指すことで、前年と同様に仕事するのではなく、能動的に本質を見極めながらスピードをもって動くことを目指します。

約束4 個性かがやく人財の輩出

人財開発・育成

全社員対象に「1on1コミュニケーション研修」を実施(SB)

サッポロビールでは、2018年から「1on1ミーティング」を推奨し、上司と部下の対話促進による組織の活性化を図っています。2020年にはさらなる進化を目指し、全階層の社員に対し「1on1コミュニケーション研修」を実施しました。マネジメント層には「一人ひとりの部下と向き合い、部下の力を引き出し、挑戦や成長を支援する人財マネジメント強化」、一般社員層には「1on1ミーティングを実施するメリットや活用方法の理解促進」を目的とし、それぞれ実施しました。全社員が、「1on1ミーティング」を有効に活用することで、コミュニケーションの質が高まり、強固な信頼関係のもとで人財の個性かがやき、新たな企業価値の創造につなげます。



副業解禁(SH・SB)

サッポロホールディングスおよびサッポロビールでは、2021年1月から副業を認めています。副業は、単に収入増を目的としたものではなく、社員一人ひとりが新しいことにチャレンジして成長することが、会社に良い影響を及ぼし、個人の成長と会社の発展につながるものとしています。

サッポロホールディングスおよびサッポロビールでは、副業は「個人事業主(フリーランス)として行う形式」「他企業との雇用契約を締結する形式」のいずれも認めており、副業の内容が以下のいずれかを満たす場合に許可しています。

- ① 現在の業務または新たなキャリアプランにつながる内容となっている
- ② 副業を通じて、具体的な成長プランが描かれている
- ③ 社内では得ることのできないアイデアや人脈が生まれることが期待できる

ロジスティクス人財育成の基盤構築

「サッポロロジスティクス★人づくり大学」

ロジスティクスを取り巻く厳しい環境変化の時代において、人財育成を最重要課題の一つと捉え、グループ全体のロジスティクス改革を推進する人財育成、開発を目指して2019年より「サッポロロジスティクス★人づくり大学」(ロジ大)を開校し、運営しています。毎年グループ各社からロジスティクス部門だけにとどまらずさまざまな部門から参加し、延べ66名が受講しています。ロジ大では、ロジスティクスの基礎知識の習得から事業戦略につながるSCMを起点とした課題提起に至るまで、幅広い活動の機会を提供しています。受講生同士が交流、切磋琢磨することでロジスティクスをより深く考える場となっています。



「ロジスティクスは経営そのもの」という理念のもと、社外講師を招いた基調講演のオープンセミナーも定期的に行われ、経営層から各バリューチェーンを跨いだ多くの関係者が積極的に学びを深めています。



Special Feature 1

気候変動への取り組み



サッポロホールディングスは、企業における気候変動のリスクと機会に関する評価・管理、情報開示を促すTCFDの提言に賛同しており、積極的な情報開示を進めています。

気候変動対応が地球規模で取り組むべき最重要課題の一つであると認識し、「緩和*」と「適応*」の両面から課題解決に向け、将来発生する可能性のある事業環境をシナリオ分析により複数想定した上で、リスクと機会を洗い出し、その結果を戦略や取り組みに反映しています。

ガバナンス

サッポログループは、サッポロホールディングス代表取締役社長を委員長とする「グループサステナビリティ委員会」を、「経営会議」の諮問機関として設置し、グループ全体の環境保全活動を推進・統括するとともに各事業会社の環境経営の取り組みをサポートしています。

グループの環境方針や世の中の動向を踏まえたさまざまな課題を検討し、特に重要課題と位置付けている気候変動においては、温室効果ガスの排出量削減に取り組んでいます。

また、事業会社では各社の事業特性に合わせた環境保全推進体制をとっています。

□ P.4 サステナビリティ推進体制

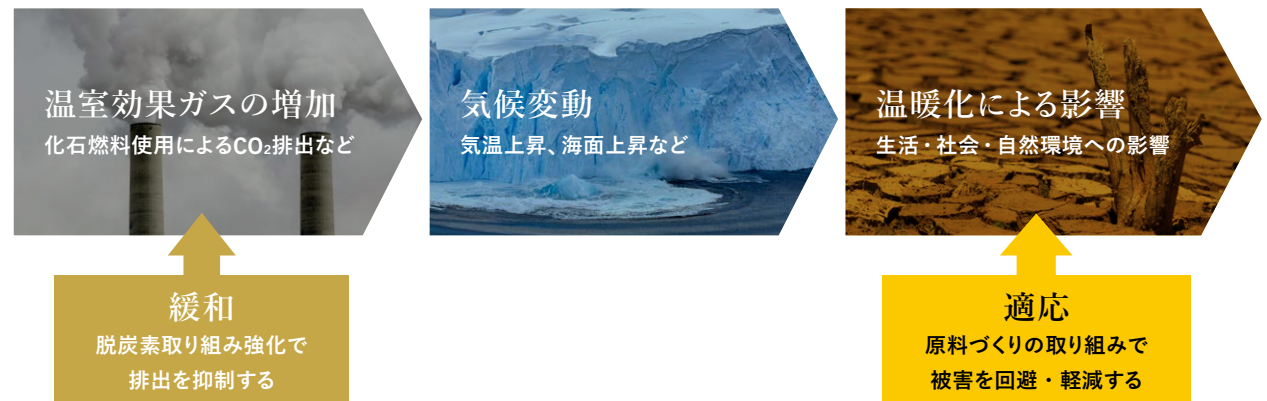
戦略

サッポログループでは、脱炭素社会の実現に向け、2019年に「サッポログループ環境ビジョン2050」を策定し、脱炭素を志向した事業構造改革、省エネ対策の徹底に加え、再生可能エネルギーの活用により地球温暖化防止に取り組んでいます。

その中で、基軸のビール事業では、1876年創業時から主原料の大麦とホップの育種を自ら行い、2006年から「協働契約栽培」という独自の原料調達システムを採用しています。今後は後述の各シナリオによる原料の収量への影響を想定し、サッポロビール原料開発研究所を拠点に国内外の大学や研究機関、サプライヤーと連携しながら新品種の開発、そして安定調達に努めていきます。副原料のトウモロコシ、コメも安定調達のためサプライヤーとの連携を強化していきます。

グループ全体での徹底した脱炭素の取り組みと、ビール事業で140年以上にわたり培ってきた原料づくりの取り組みで、気候変動へ緩和と適応の両面から課題解決に挑み、レジリエントな企業体を目指すとともに、持続可能な社会の構築に貢献します。

* 緩和：温室効果ガスの排出を抑制すること 適応：温暖化の影響に対して自然や人間社会のあり方を調整すること 《環境省資料より》



Special Feature 1：気候変動への取り組み

シナリオ分析

基軸のビール事業で気候変動による影響が想定されるビール原料農産物の調達地域を対象とした、シナリオ分析を実施しました。国際連合食糧農業機関（FAO）のシナリオ分析データなどをもとに、異常気象などの要因を考慮して補正しており、気候変動要因、経済社会要因、生産量に関する要因がそれぞれ異なる3つのシナリオについて、2050年までの収量の変化を想定しています。

シナリオ分析結果

	気温上昇	異常気象 (台風や洪水、干ばつ等)	農業関連動向	その他社会動向
サステナビリティ 進展シナリオ	2°C未満に抑えることが可能	ある程度増加(-)	化学肥料などの使用に関する規制強化(-)	人口増加、生活水準向上、食料需要増加、 食料価格の一定程度上昇
サステナビリティ 標準シナリオ	2°C未満に抑えることが不可能	頻発化や被害拡大(-)	品種改良や設備投資の増加(+)	人口増加、生活水準向上、食料需要増加、 食料価格の上昇
サステナビリティ 停滞シナリオ	2°Cを大きく超える	激甚化(-)	作物の病害が多発し農業被害が拡大(-)	食料価格高騰、貧困層の食への アクセス困難化

+：収量にプラス影響 -：収量にマイナス影響

主要調達国の収量増減予想 ▲：>5% ➡：±5%以内 ▼：<-5%

サステナビリティ進展シナリオでは、化学肥料使用に規制がかかる影響等で収量にマイナス影響を与えることを想定しています。収量推計が増加基調の国では上表のマイナス要因を受けても増加や横ばいを保つ場合があります。

大麦

	進展	標準	停滞
ヨーロッパ	▼	➡	▼
北米	▼	▲	▲
オセアニア	➡	▲	➡
東アジア	▼	➡	▼

ホップ

	進展	標準	停滞
ヨーロッパ	➡	➡	▼
北米	➡	➡	▼
オセアニア	▲	▲	▲
東アジア	▲	▲	▲

トウモロコシ

	進展	標準	停滞
北米	▼	▼	▼
南米	▲	▲	▲

コメ

	進展	標準	停滞
東アジア	▼	➡	▼

2050年時点の収量推計が、2018年時点の収量と比較し、増加(▲)、横ばい(➡)、減少(▼)しているかを示す。

Special Feature 1：気候変動への取り組み

リスクと機会、対応・施策の方向性

シナリオ分析の結果によると、各シナリオで収量が減少する地域があることがわかりました。これらの影響を含めて、3つのシナリオが現実化した場合を想定し、サッポログループが直面するリスクと機会について検討を行いました。

リスクについては、異常気象による農作物の収量減少、規制強化、病虫害などによる品質低下などを認識しています。一方で機会については、品種改良による品質の安定化、新品種の開発、商品開発等による競争力の強化を認識しています。緩和策や適応策を強化することで、リスクの影響が低減され、機会を獲得できる可能性が大きくなると捉えています。

収量減少の傾向が各地域で生じますが、地域差に応じて、多角的に調達先を確保することにより対応します。また、農薬に関する規制強化、病害による収量減や品質低下には、「協働契約栽培」の活動や新品種の開発・実用化で対応していきます。これらは、いずれのシナリオに対しても効果を発揮する施策です。

項目	リスクと機会	対応・施策の方向性
リスク	<ul style="list-style-type: none"> ● 各国の農薬に関する規制強化 ● 各国で進むカーボンプライシング導入によるコスト増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農薬規制情報と農薬使用状況の把握 ● 化学農薬に代わる生物的防除や物理的除去法等の総合的病虫害管理の情報収集と生産者動向の把握 ● 脱炭素化取り組みの推進（2030年・2050年目標達成）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界の人口増加等による食料需要の増大や、異常気象による生産量の減少に伴う輸出規制の強化、調達価格の上昇 ● 新規感染症の流行等による原材料の調達停滞 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多角的な調達先の確保 ● グローバルの食品輸出入動向・規制に関する情報収集・把握 ● 国内生産安定化のための基盤強化
	<ul style="list-style-type: none"> ● 異常気象による原料の品質低下 	<ul style="list-style-type: none"> ● 異常気象による品質低下リスクの低い大麦・ホップ多収性品種の開発・普及
	<ul style="list-style-type: none"> ● 温暖化による病虫害の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病害抵抗性に優れた大麦・ホップ新品種の開発・普及 ● サプライヤーとの連携による総合的病虫害管理の導入に向けた病虫害防除体系の確立
機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 異常気象による熱波や干ばつ・降雨不順による水リスクの増加、台風や集中豪雨による風害・水害等の発生頻度の増加と被害の甚大化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存拠点の水供給の安全性と湧水および異常気象に対するリスク評価
	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT・ロボットなどを活用した生産システムの効率化、品種改良（育種）による品質の安定化、原料新品種開発、商品開発等による競争力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外のパートナーとの協働による農業の新技術の活用 ● 干ばつや多雨等の気候変動の影響を回避・軽減する大麦・ホップ適応品種の開発・普及

Special Feature 1：気候変動への取り組み

指標と目標

前ページの対応・施策の中から、特にサッポログループが注力する取り組みに対して、以下のとおり指標と目標を設定しました。

温室効果ガスの排出抑制等による緩和策では、サッポログループとして中長期のCO₂排出削減目標を設定しています。その中のバリューチェーンに関する目標では、今後の具体的取り組みの一つとして、国内の協働契約栽培地域における排出削減活動を新たに設定しました。農薬などの規制を勘案し、取り組みを国内栽培地域に広げます。

気候変動の影響による被害を回避・軽減する適応策では、基軸のビール主原料農産物に関する目標を新たに設定しました。干ばつや多雨といった異常気象、それらによる水ストレスや病害など、収量減少や品質低下の要因に対応できる品種の開発・実用化を目指します。

緩和策

- 2030年までに自社拠点からのCO₂排出量を2013年比で20%削減
- 2050年までに自社拠点からのCO₂排出量ゼロを目指す
- バリューチェーン全体のCO₂排出量の削減に努める（2030年までに排出削減活動を国内の協働契約栽培全産地で展開）

適応策

- 2030年までに気候変動に適応するための新品種（大麦、ホップ）を登録出願
- 2035年までに気候変動に適応するための新品種（大麦、ホップ）を国内で実用化
- 2050年までに上記品種のほか、新たな環境適応性品種を開発し、国内外で実用化

そのほか、気候変動に関連する項目については「サステナビリティ重点課題中長期目標」において目標を設定し、グループ全体で達成に向けた取り組みを推進しています。

まだ十分に解析できていないリスクや機会、その対応策、財務インパクトなどについては、引き続き把握に努めるとともに、開示情報の拡充を進めていきます。また、社会情勢の変化により見直しも適宜実施します。



サッポログループ環境ビジョン2050

<https://www.sapporoholdings.jp/csr/earth/environment/target/>

原料・製造へのこだわり

当社は2019年5月にTCFD提言への賛同を表明して以来、基幹事業であるビール事業で気候変動により影

響が大きくなると想定される原料農産物について分析を実施し、事業に与えるリスクや機会、それに伴う対応策をまとめてきました。分析では想定される条件下において、地域により原料農産物の収量が中長期的に減少する結果となり、当社は気候変動対策としてこれまでのCO₂排出削減による緩和策以外に、原料農産物の「育種」「協働契約栽培」などによる適応策にも対応する必要があると判断しました。具体的には気候変動に適応する大麦・ホップ新品種の開発を進め、2035年までに国内で、また2050年までに開発をさらに拡大し国内外で、実用化することを目指します。



気候変動対策に原料新品種開発で対応

～気候変動への適応に大麦・ホップ新品種を開発し、2035年までに実用化を目指す～
この実現には、1876年創業時からビール主原料の大麦とホップの「育種」を継続し、かつ「協働契約栽培」もしている世界で唯一のビール会社として培ってきた原料研究の成果を活用していきます。実現にあたっては、サッポロビール原料開発研究所を拠点に国内外の大学や研究機関、サプライヤーと連携しながら実施し、新品種の開発および原料の安定調達に努めていきます。

約束 1

新価値創造

原料からの価値創造

ビールを劣化させる原因の一つが大麦に含まれる酵素リポキシゲナーゼ-1(LOX)。サッポロビールは長年の研究の末、香味劣化の要因となるこの酵素を持たないLOXレス大麦を岡山大学と共同で見つけ出すことに成功しました。世界各地の育種機関と共同で品種開発を実施し、カナダ、オーストラリアにおいてLOXレス大麦品種の育成に成功しています。このLOXレス大麦を麦芽に加工し、ビールの鮮度を長持ちさせ、泡品質を向上する「旨さ長持ち麦芽」として「サッポロ生ビール黒ラベル」に一部使用しています。サッポログループはこれからも、ビール原料である大麦、ホップの品種開発から、酵母による発酵などの製造技術開発を基盤とし、独自の視点で市場を切り開く新たな価値を創造していきます。



旨さ長持ち麦芽
(LOXレス大麦麦芽)
使用



「サッポロ生ビール
黒ラベル」(一部使用)

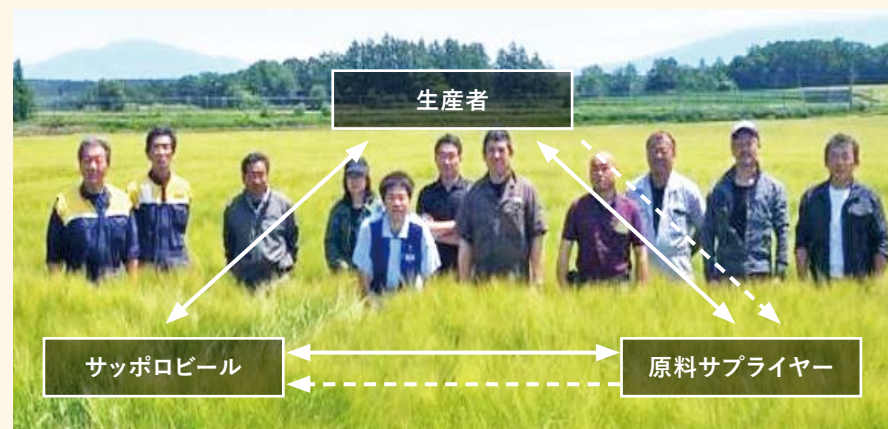
約束 1 安全・安心の品質

「協働契約栽培」による高品質の追求

サッポロビールは「おいしさ」と「安全・安心」をお客様に提供するために、原料の調達にも徹底的にこだわってきました。それが、生産者やサプライヤーとともにつくる「協働契約栽培」というシステムです。「協働契約栽培」は、

- 1 大麦とホップの産地と生産者が明確であること
- 2 生産方法が明確であること
- 3 当社と生産者の交流がされていること

この3つを柱とした活動を通じて、生産者とともに麦芽とホップを畑からつくり上げるサッポロビール独自の原料調達システムです。



◀→ 情報の流れ ---▶ モノの流れ

約束 2 地域貢献

原料の開発、生産・商品化による地域との共栄

北海道の上富良野はサッポロビールで開発したビール大麦とホップの両方が生産されている国内唯一の地域です。その地域特性を活かし、地域限定商品の製造受託や商品を通じたイベントへの協力などにより地域の振興を支援しています。



上富良野の地域限定商品
「まるごとかみふらの」

ビールの需要減少をはじめ生産者の高齢化や後継者不足などの要因により、日本産原料の生産量は年々減少しています。サッポロビールは大麦とホップの品種を開発し、国内での生産普及に努めてきました。今後も持続的に開発し、さらには生産・商品化によるブランド価値の向上を図ることで日本産原料の活性化に貢献していきます。

「サッポロ 麦とホップ 東北の香り」



約束 3

3Rの推進

食品ロス対策への活用

食品ロスが大きな社会問題となっています。サッポロビールはビールを劣化させる酵素を持たないLOXレス大麦を原料とする「旨さ長持ち麦芽」の採用、生産工程で酸素に触れない製法、物流では定温輸送や揺れを防止することで劣化を防ぐなどの取り組みにより、賞味期限の延長を実現しています。

旨さ長持ち麦芽

生産工程で
酸素に触れない製法定温輸送、揺れ防止
などにより劣化を抑制

ビールテイスト商品の賞味期限を9ヵ月から12ヵ月へ延長し、
製造年月旬の表示を月表示に変更



※ 国内製造の缶・びん商品



約束 3

自然との共生

気候変動に対応可能な特性を持つ
大麦・ホップの開発

サッポロホールディングスは、地球的規模での食料・環境問題の解決に貢献するため、2017年7月に東京農業大学と包括連携協定を締結しました。

東京農業大学とはそれまでも、サッポロビールが学部レベルで大麦やホップの生産・利用法などで連携していましたが、学部から大学へ、サッポロビールからサッポロホールディングスへ関係を拡大したことを弾みに、食品や関連産業の活性化に貢献できる活動や、商品開発への支援を通じた国際協力活動などに積極的に取り組んでいます。

サッポログループはこうした産学連携によるパートナーシップも活用しながら、気候変動によるリスクに真正面から立ち向かうとともに、リスクを機会に変え、

安全・安心で高品質の原料調達と持続可能な生産活動へとつなげていきます。



東京農業大学との共同研究・調査



Special Feature 2

レモン事業 — 新しいレモン需要の創造

近年のライフスタイルの変化・健康意識の高まりを背景に、「ポッカレモン100」「キレートレモン」が、2019年度に続き2020年度も過去最高出荷となりました。ポッカサッポロは、さらなるレモン事業の拡大を目指し、「レモン事業ビジョン」を掲げ、レモンの総需要を2026年までに2倍にするという中期目標を立てています。人口減少、高齢化が進む中で、「食育」「健康機能」「地域共創」の3つの価値訴求を軸とした社会課題の解決に向けてレモン事業に真摯に取り組み、レモン需要拡大に努めていきます。

レモン事業における3つの価値訴求

食育価値

レモンが持つ歴史や文化、栄養機能や使い方などをわかりやすく伝える目的で「レモン大学」と称したセミナーを各所で実施しています。また、2021年からは東北楽天ゴールデンイーグルスによるレモン食育サポートを開始するなど、小学生から大人まで、幅広い世代にレモンの価値をお届けしています。

*各種セミナーやイベントについては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見合わせているものがあります。



健康機能価値

レモンに含まれる健康成分についてのさまざまな研究を大学などの社外研究機関と連携しながら行っています。特に「クエン酸」はレモンの酸味成分であり、その含有量は果物の中でもトップクラスです。2020年からは、ポッカサッポロの公式Webサイト上で「レモンミュージアム」を開設し、情報発信を行っています。



地域共創価値

ポッカサッポロが近年特に力を入れているのが、国産レモンの栽培を通じた「地域共創」の活動です。レモンの需要拡大に向けて、地域やレモン農業に関わる関係者に寄り添った活動体制を整え、持続可能な国産レモンの生産振興を目指しています。

[地域社会との共生]

国内最大のレモン生産地 広島県と連携

国産レモンの生産振興のため、国内最大のレモンの生産地である広島県とパートナーシップ協定を締結しました。その後、広島県の各自治体と協働で、国内のレモン市場を拡大する取り組みを進めています。

2013年2月 広島県とのパートナーシップ協定の締結

2016年4月 JA広島ゆたかとの業務提携、大崎上島町との包括協定

2017年4月 呉市との連携協定



(左より)ポッカサッポロの征矢社長、大崎上島町の高田町長(2020年11月表敬訪問)

[社会課題の解決]

レモン栽培を開始

第1次産業に共通した悩みである農業就業人口の減少、高齢化・後継者不足、耕作放棄地の増加等の課題解決に向けた具体的方策として、2019年より広島県にある大崎上島町においてレモン栽培を開始しました。また、2020年には大崎上島町の空き家を活用してサテライトオフィスを開き、耕作放棄地を再生利用するための実態調査を広島大学と共同で開始しています。



2020年11月撮影

Special Feature 3

プランツミルク事業 — 植物由来商品の展開と拡大

ポッカサッポロのプランツミルク事業では、お客様の健康志向やサステナビリティへの意識の高まりから、今後ますます注目が高まることが予想される大豆をはじめとした植物性素材に着目し、新たな事業を展開しています。また、「SOYBIO豆乳ヨーグルト」をはじめ、「ソヤファーム」「アーモンド・ブリーズ」等のブランド価値を活かし、健康機能、環境問題などの社会課題の解決にも貢献しながら、プランツミルク事業の基盤を強化・拡大していきます。

01 豆乳ヨーグルト市場の拡大

近年、健康意識の高まりや植物性素材の需要を受け、豆乳ヨーグルト市場はヨーグルト市場を上回る伸び率で推移しており、ポッカサッポロの主要ブランド「SOYBIO豆乳ヨーグルト」「ソヤファーム 豆乳で作ったヨーグルト」の販売が好調です。

With コロナによる
健康意識の高まり

植物性タンパク質
使用商品の広がり

サステナビリティ
関心の高まり

ヨーグルト市場全体
前年度比 **101%**

豆乳ヨーグルト市場全体
前年度比 **118%**

ポッカサッポロ「豆乳ヨーグルト」
カテゴリー計
前年度比
120%
(2020年度)



2016 2017 2018 2019 2020 (年度)

02 植物性素材の可能性

健康意識の高まりによって、植物性素材は今や食卓に欠かせないものとなりつつあります。豆乳を乳酸菌で発酵させてつくった豆乳ヨーグルトの市場は、健康・美容ニーズに加え、近年ではサステナビリティなど環境意識の高まりや、大豆タンパク摂取に注目が集まっていることなども、けん引要因となっています。中でも、プランツミルクは牛乳と比較しても、CO₂排出量を削減するなど、環境負荷の低減に大きく貢献すると言われています。

ポッカサッポロが販売している商品の中では、特に、「おいしさ丁寧搾り製法」にこだわって作り、家族で食べられ料理などにも幅広く使える無糖の大型容器商品「SOYBIO豆乳ヨーグルトプレーン無糖400gカップ」や、美味しくヘルシーに楽しめるアーモンドミルク「アーモンド・ブリーズ」が好評をいただいています。



SOYBIO豆乳ヨーグルト



アーモンドミルク「アーモンド・ブリーズ」



Special Feature 4

恵比寿ガーデンプレイス — “まちとのつながり”を育む

サッポロ不動産開発は、恵比寿エリアの価値向上を実現のため、ステークホルダー（行政・自治会・企業・ワーカー・来街者など）の方々との関係性を深め、テーマに沿ったコミュニティ形成活動を行っています。都市農（YEBISU GARDEN FARM）を通じたコミュニティづくりとイベント実施、UDC*プロトタイプ拠点（YEBISU GARDEN BASE）の構築、地域SNSアプリ（PIAZZA）を通じたエリアコミュニケーション活性化などに取り組んでいます。

* UDC：アーバンデザインセンターの頭文字。専門家が主導し、そのもとで「民・学・公」の多様な主体が連携してまちの将来像を描き、実現するまちづくりのプラットフォーム

01 「YEBISU GARDEN FARM」での 都市農に着目した自然との共生の取り組み

「都市農業」に着目したまちづくりの取り組みを2019年より開始してきました。これまでは、移動式プランターを用いての簡易的な取り組みでしたが、2020年4月にサッポロ広場内にて、コミュニティファーム「YEBISU GARDEN FARM」を開園しました。

今後はパートナー団体のNPO 法人アーバンファーマーズクラブとともに、恵比寿という都市の中でも地域の方々が自然との共生を意識できることを目指し、自然と触れ合え・ともに過ごせる機会の創出や、都市農業をきっかけにした恵比寿エリアのコミュニティづくりなど、さまざまなきっかけづくりに取り組んでいます。



02 街の未来を語り、将来を描くための場所 「YEBISU GARDEN BASE」

恵比寿ガーデンプレイスのブリックエンドエリアに“まちとのつながり”を育むコミュニケーションスペース「YEBISU GARDEN BASE」を2021年4月に期間限定で開設しました。

「YEBISU GARDEN BASE」は、まちとのさらなるつながりを育み、産官学民連携で恵比寿のまちづくり活動に取り組むためのきっかけづくり・関係性づくりの拠点となることを目指しています。その一環として開設時には、DIY ワークショップを実施し、ここで使用する一部の家具をまちの方々とともに作りました。

今後は、まちに関わるさまざまな方々との交流の場やまちの未来を考える場などとしての活用を予定しており、当社が2010年から主催している恵比寿のまちの文化祭「恵比寿文化祭」や昨年サッポロ広場に開設した「YEBISU GARDEN FARM」の活動場所として、また、地域SNS「ピアッツァ」のリアルな交流場所などとして活用していきます。



03 地域SNSアプリ「ピアッツァ」を活用した 地域コミュニティの形成

2020年7月にデジタルとリアルが融合した新たな地域コミュニティの形成を促進するために、恵比寿エリアの地域SNSアプリ「ピアッツァ」を開設しました。

地域の情報や災害時の助け合い、物品の譲り合いグループ機能を活用して、地域の人々に有益な情報が届く仕組みとつながりの強化を目指します。

今後はデジタルにとどまらず「ピアッツァ」を活用して会員向けのイベントなども開催し、新しいコミュニティ形成を展開していきます。



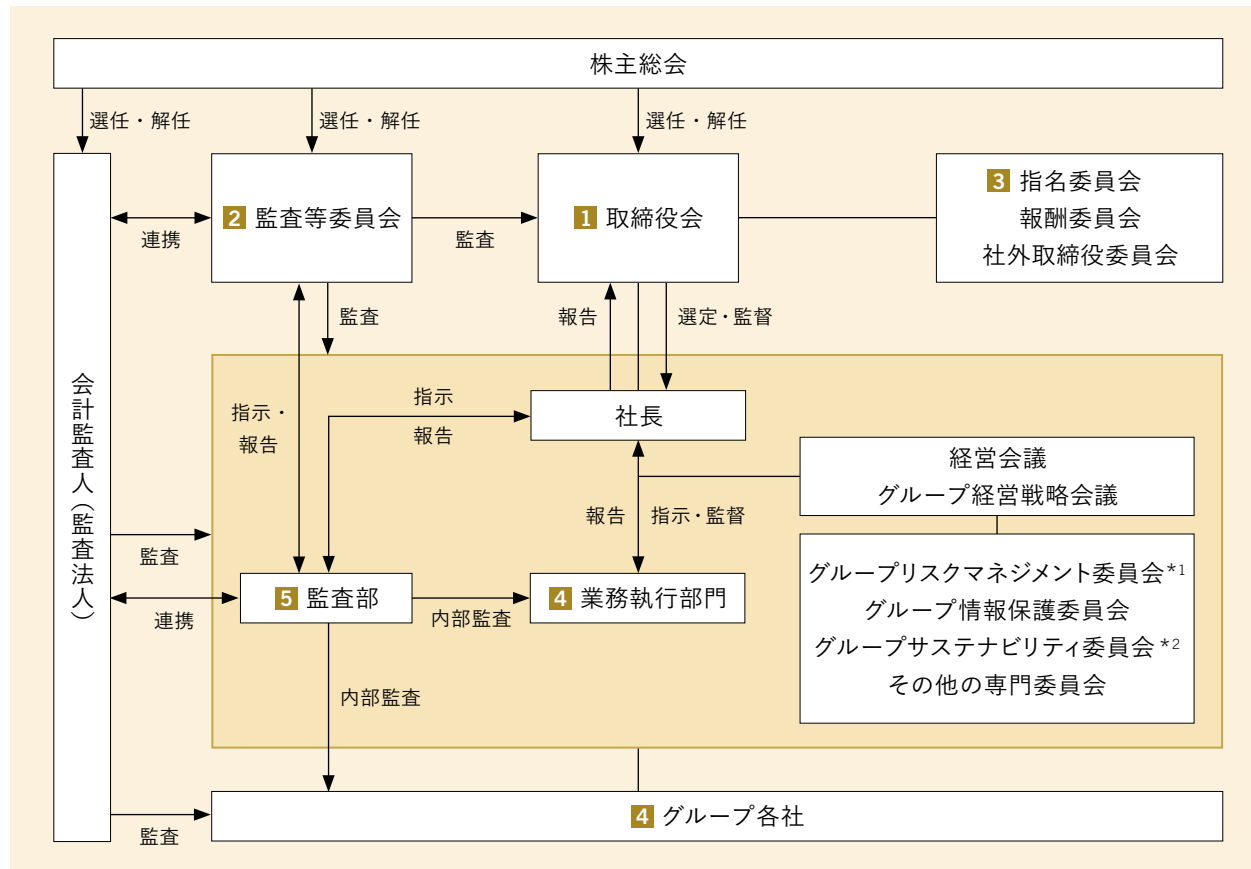
コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスに関する基本方針

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現に向け、東京証券取引所上場規則における「コーポレートガバナンス・コード」の趣旨・精神を踏まえた上で、当社のコーポレートガバナンスに関する考え方および運営方針を明確化するため、「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を制定しています。

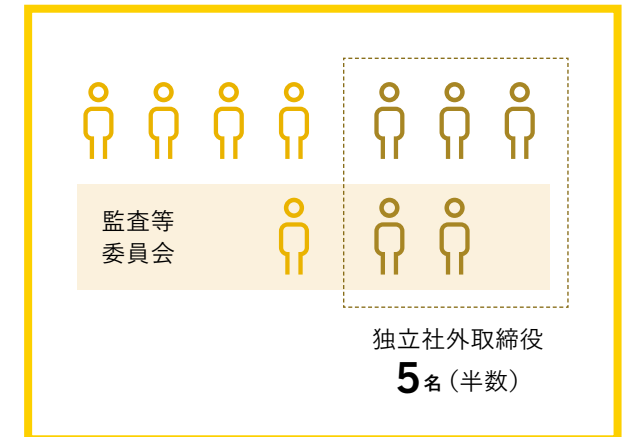
本方針の中で、コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方として、コーポレートガバナンスの強化・充実を経営上の重要な課題の一つとして位置付け、持株会社体制のもとでグループ内における監督機能、業務執行機能および監査機能を明確化し、経営における透明性の向上と経営目標の達成に向けた経営監視機能の強化に努めています。

サッポログループのコーポレートガバナンス体制



*1 グループリスクマネジメント委員会 委員長：代表取締役社長 *2 グループサステナビリティ委員会 委員長：代表取締役社長

取締役会の構成員



コーポレートガバナンス

1 取締役会

取締役会は、グループ経営における監督機能を担い、法定事項および取締役会規程に定める重要な業務執行事項について意思決定するとともに、代表取締役、社長、グループ執行役員等を選定し、その業務執行状況を監督しています。

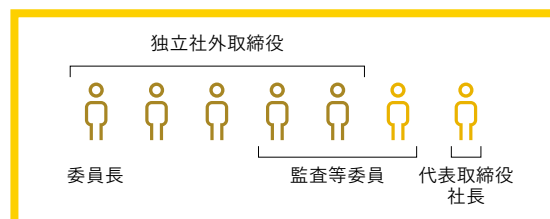
2 監査等委員会

当社は、経営における透明性の向上と、経営目標の達成に向けた経営監視機能の強化のため、取締役の職務の執行を監査・監督する機能を有する監査等委員会設置会社を採用しています。監査等委員会は、取締役会および経営会議その他の重要な会議等への出席による情報収集と共有、ならびに内部監査部門との十分緊密な連携体制を通じて監査等委員会の監査・監督機能の実効性を確保するため、常勤の監査等委員である社内取締役1名を選定し、当該常勤の監査等委員を中心に代表取締役との定期的な意見交換、内部監査部門および内部統制部門ならびに会計監査人と意思の疎通を図り、情報の収集および監査環境の整備に努めています。

3 指名委員会／報酬委員会

当社は、監査等委員会設置会社ですが、取締役の人事・処遇に係る運営の透明性を高め、経営機構の健全性を維持する目的から、取締役会の諮問機関として、指名委員会と報酬委員会を設置しています。両委員会の委員は、すべての独立社外取締役（監査等委員である取締役を除く）、すべての監査等委員である取締役および取締役社長（グループ執行役員から社長を選定しているときは、取締役会長）の計7名をもって構成し、委員長は独立社外取締役（監査等委員である取締役を除く）より選出することとしています。

指名委員会／報酬委員会



3 社外取締役委員会

当社は、2015年12月に「社外取締役委員会」を設置し、当社および当社グループの経営戦略、ならびにコーポレートガバナンスに関する事項などについて独立社外取締役による情報交換、認識共有の強化を図っています。

4 グループ執行役員

社長は、当社取締役会の決定に基づき、グループ全体の業務執行を統括します。業務執行については、経営陣に委任する範囲を明確化しており、経営陣は、経営会議・グループ経営戦略会議等の諮問機関を通じて、その裁権限の範囲内において、機動的な意思決定を行う体制としています。

なお、グループの主要な事業会社代表取締役社長を兼務するグループ執行役員は、当社社長に対し、担当部門の経営目標をコミットし、グループ経営目標に対する責任を明確化した上で、毎月、担当部門の営業状況の報告を行うこととしています。

5 内部監査

監査等委員会設置会社への移行に伴い、業務執行ラインから独立した内部監査部門が、代表取締役又は監査等委員会の指示を受けて当社ならびに子会社の業務全般を対象に法令、定款、社内規程の遵守状況等について監査を行う、いわゆる「デュアルレポートライン」となり、また、内部監査部門の使用人は、監査等委員会の指示を受けてその職務を補助する場合は、専ら監査等委員会の指揮命令に従うこととなっています。

当社のコーポレートガバナンスの詳細については、「コーポレートガバナンスに関する報告書」をご参照ください。



コーポレートガバナンスに関する報告書

https://www.sapporoholdings.jp/csr/governance/policy/pdf/corporate_governance_report_2021.pdf

コンプライアンス

当社では、すべての役員・従業員に確かな倫理観に基づく行動を促す規範として「サッポログループ企業行動憲章」を定めています。グループリスクマネジメント委員会のもと、総務部を事務局として、グループ全体のコンプライアンス体制を構築し、不正行為の未然防止・早期発見を目的とする企業倫理ホットラインを設置しています。また、業務執行ラインから独立した内部監査組織である監査部が、当社および子会社の業務全般を対象に法令・定款・社内規程の遵守状況について監査を行っています。

グループ共通施策

サッポログループでは、下記の施策をグループ共通で展開し、グループ各社が主体となって取り組みを行っています。

1 ミニブックの作成・配布

コンプライアンスに関するグループ共通の事項を記載したミニブックを作成し、社内イントラネットに掲載することで、コンプライアンス推進に必要な事項の周知等を行っています。

主な掲載内容

サッポログループの経営理念、企業行動憲章や主要なグループ規程、企業倫理ホットラインなどの相談窓口、ハラスメント防止や個人情報保護、反社会的勢力排除の取り組みなど

2 グループ共通コンプライアンスe-ラーニングの実施

従業員一人ひとりが、「サッポログループ企業行動憲章」および重要なグループ基本方針・規程、重要法令を理解し、確かな倫理観に基づいて行動すること、そしてそれにより、日常の行動におけるコンプライアンスリスクの低減を図ることを目的として、2007年以降、すべての従業員を対象としたコンプライアンスe-ラーニングを実施しています。

対象者のコンプライアンス意識の向上と知識の定着に向けた継続的な取り組みとなっています。

3 ケーススタディによる職場勉強会

コンプライアンス意識のさらなる向上や、倫理的な価値判断の職場での共有を目的として、コンプライアンス事例集である「サッポロケースブック」（2008年初版発行、2013年改訂版発行）などを用いた勉強会を、職場ごとに実施しています。

4 従業員のコンプライアンス意識調査

コンプライアンス意識や企業行動憲章に基づいた行動が従業員に浸透しているかを確認するため、グループ共通で従業員意識調査を実施しています。また、その結果をグループ各社の経営層に報告することで、コンプライアンス施策に役立てています。

2007年から2012年までは、原則2年ごとにコンプライアンス意識調査を実施しました。2013年以降は、人事部門主催の従業員意識調査の中でコンプライアンスに関する調査を実施しています。

グループ各社の独自施策

グループ横断施策以外に、グループ各社では下記のような独自の取り組みも行っています。

サッポロライオン

4コマ漫画を用いた教材を毎月発行

外食事業の特性上、店舗数およびパート・アルバイト従業員も多いため、集合研修による教育・啓発は頻繁に実施できません。そこで、短時間のミーティング等でコンプライアンス上の問題が理解できるよう、4コマ漫画を用いた独自の教材「ライオン日和」を月1回発行。その時々をテーマをわかりやすく伝えることで、コンプライアンス意識の浸透に努めています。

サッポロ不動産開発

タイムリーなコンプライアンスのトピックを解説する教材を毎月発行

従業員のコンプライアンス意識向上のため、15ページ程度の学習教材「旬のこんぷら定食」を毎月独自に作成し、従業員がネット上で学習しています。この学習により、複雑化の進むコンプライアンスに関する知識を、楽しみながらタイムリーに習得し、日々の業務に活かしています。

リスクマネジメント

リスクマネジメントに関する基本的な考え方

サッポログループは「事業と環境に関わるリスクを包括的に把握し、重点的に対応すること」により事業の持続性を図ります。リスク管理の重点化により、脅威の極小化、機会の最大化に努めていきます。

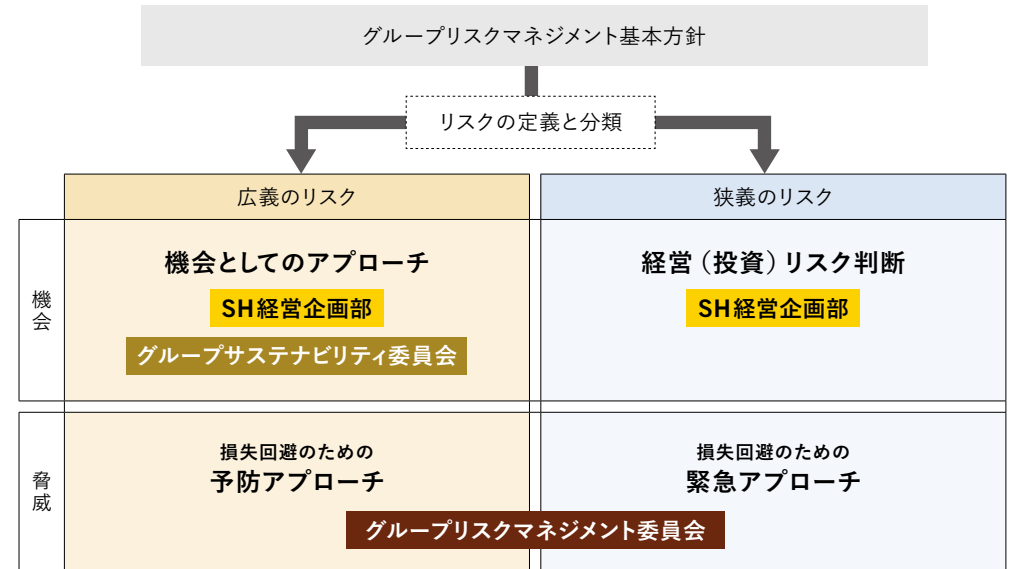
サッポログループのリスクの捉え方

リスクを「将来に向けた不確実な事象」と定義し、会社にとっての「機会」と「脅威」に大きく分類します。また、未だ顕在化しない広義のリスク、すでに具現化した狭義のリスクに分け、それぞれ担当する機関がアプローチするものとしています。

グループリスクマネジメント運用フロー

サッポログループでは、第4四半期に次年度のグループリスクマネジメント方針を決定します。SH経営企画部およびグループサステナビリティ委員会、グループリスクマネジメント委員会では、相互の役割を認識してそれぞれの機能に応じたアクションプランを設定し、リスク（機会・脅威）に総合的に対応していきます。また、経営会議、取締役会では四半期または半期ごとに各機関から報告を受け、リスク管理のモニタリングを行っています。

リスクの定義と分類



リスクマネジメント体制



経営上の主なリスク(脅威)への対応

次に掲げるリスクは、当社グループを取り巻くリスク事象のうち、脅威とその対応について示しています。

	内容	対応	
事業環境に関するリスク	法令や規制・税制	法的規制の強化や新たな規制の制定によって、事業活動が制限されたり、新たな費用が発生する可能性がある	● アルコール関連問題、食品ロスやプラスチック問題などに関する法的規制状況の継続的なウォッチおよびプロアクティブな対応
		製造物責任法、知的財産基本法、税務等の問題で訴訟を提起される可能性がある	● 社内法務教育を通じた、法令の正しい理解と法令遵守の徹底 ● 各法分野に精通している弁護士(専門家)からの的確な助言・サポートによる訴訟への対応体制整備
		海外の事業活動において、業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● 海外事業に関係する国・地域における法規制情報の収集および社内周知
	為替・金利の変動	総資産に対する金融負債の比率が比較的高いことによって、市場金利が上昇した場合や、格付けが引き下げられた場合に金利負担が重くなったり、資金調達の条件が悪化する可能性がある	● 変動リスクの限定を目的とした為替予約取引、金利スワップ取引、通貨スワップ取引の実施 ● 市場モニタリングの実施
		原料・資材の価格が高騰することにより、売上原価が上昇する可能性がある	
	天候・気候変動・災害・伝染病	自然災害および二次災害の影響により、損害が発生する可能性や、商品供給に支障をきたす可能性がある	● 保有するオフィス、商業、住宅などの施設および工場の設備安全体制・管理体制の強化 ● 災害時の物流網の確保
海外の事業活動において、業績に悪影響を及ぼす可能性がある		● 国別ポートフォリオによるリスク分散	
気候変動や社会環境問題への対応遅延、伝染病などにより、原材料調達からのサプライチェーンに支障をきたす可能性がある		● 主要原料農作物の気候変動リスクに備えた研究開発や気候変動リスクを勘案した生産地エリアの選定 ● サプライヤーからの原料農作物生育状況に関する情報収集 ● 取水・排水の地域特性の把握、原料輸送に影響を与える災害などの情報収集 ● 従業員の在宅勤務や渡航禁止などによる予防・拡大リスク低減 ● 外食店舗の休業などによる、感染症拡大リスクの低減	
気候変動により、消費嗜好の変化が生じ、業績に悪影響を及ぼす可能性がある		● 消費嗜好変化に対応した商品開発	
事業遂行に関するリスク	経済情勢および人口動態の変化	景気悪化等、マクロトレンドの変化により、主要製品の出荷変動や製品単価が下落し、売上の減少や業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● ティンドの把握、事業に与える影響の分析、対応計画の策定・実行 ● 変化に対応した商品開発
		ライフスタイル・消費者嗜好・流通チャネル等の生活トレンドの変化により、主要製品の出荷変動や製品単価が下落し、売上の減少や業績に悪影響を及ぼす可能性がある	
	保有資産価値が低下する可能性がある	● 市場全体のモニタリング ● 投資判断基準の厳格化	
	質的・量的な人財不足により、業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● グループワイドでの人財活用、人財配置計画の推進、働き方改革の推進、BPR(ビジネスプロセスリエンジニアリング)の取り組み強化、シニアの活躍推進	
	人財の多様性が尊重・活かされない場合、職場環境の悪化や変化への対応が遅れ、業績に悪影響を及ぼす可能性がある		


経営上の主なリスク(脅威)への対応

		内容	対応
事業遂行に関するリスク	ガバナンス	「内部統制システム構築ガイドライン」の運用の不徹底により、組織運営における混乱や業績に悪影響を及ぼす可能性がある 海外グループ会社のガバナンスや、グループ本社からのモニタリングが有効に機能しない場合、業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● 内部監査の充実、適切なリスクアセスメントの実施
	法令遵守・コンプライアンス	商品・サービスの製造や提供において、各業務に求められる法令の周知徹底が継続的にかつ十分に行えていない場合、法令違反やコンプライアンス違反が発生する可能性がある	● 法務教育や法令情報のタイムリーな社内共有を通じた、法令の正しい理解と法令遵守・コンプライアンスの徹底
	商品・サービスの安定供給	商品・サービスの安全性において、品質保証の取り組みの範囲を超える事態や、社会全般にわたる新たな品質問題等が発生した場合、販売休止、製品回収、営業停止など、業績に悪影響を及ぼす可能性がある ドライバー不足等の労働力問題やコストの高騰により、サプライチェーン全体でのコスト上昇や機会損失が生じ、業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● 社会全般のリスク事案の解析および予防展開 ● 発生時対応シミュレーション研修の継続実施 ● 環境変化を踏まえた各種法令遵守の対応と物流費の適正化 ● 生産・物流拠点ネットワークの整備 ● 共同配送等、輸送手段の多様化 ● ロジスティクスリテラシーの向上
	情報の漏洩・情報システム	個人情報流出などにより、損害賠償請求や、信用の低下などによる費用増や収益減が業績に悪影響を及ぼす可能性がある コンピュータウイルスの感染や不正アクセス、その他セキュリティ上の問題、自然災害の発生等により、情報の消失、漏洩、改ざん、情報システムの停止・一時的な混乱等が起これ、業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● 情報管理体制の構築・充実 ● 社内監査、委託先監査の徹底 ● 従業員教育の徹底 ● システムに対する適切なセキュリティ対策の実施、セキュリティ専門家による高度なセキュリティ監視の実施 ● 堅牢なデータセンター内でのシステム運用、ネットワークの常時監視、システム・データのバックアップ等、システム安定運用のための対策実施 ● 機器、ソフトウェアライセンス等のライフサイクル管理の徹底
	特定事業分野への依存	国内の酒類事業への依存度の高さから、国内市場での売上減少が業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● 他事業分野ならびに海外での事業活動の拡充
	事業・資本提携	提携先および出資先の経営が悪化した場合、業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● モニタリング、適切なリスクアセスメントの実施
	設備投資等	計画からのスケジュールの遅れや投資予定額の増加などにより業績に悪影響を及ぼす可能性がある	● スケジュール・進捗管理の徹底 ● 長期不動産投資計画の策定


新型コロナウイルス感染拡大防止への取り組みについて

当社グループでは「新型コロナウイルス感染症対応基本方針」等を策定、グループ災害対策本部を中心に各事業会社と連携し、情報の共有と共同歩調を図ってきました。海外を含めたグループ各社の対応状況を集約し、政府・官公庁等の指示・警報・方針等の情報共有や、感染者発生時のフォローを継続的に行っています。今後とも、従業員ならびにお客様・お取引先様の感染拡大防止および地域社会との協力を努め、最新の動向に基づき対策を講じていきます。

コーポレートデータ (2020年12月31日現在)

 会社情報

商号	サッポロホールディングス株式会社
事業内容	持株会社
設立	1949年9月1日
本社所在地	〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
資本金	53,887百万円
事業年度	1月1日から12月31日まで
従業員数	連結：7,592名 単体：151名

 Webサイトのご案内

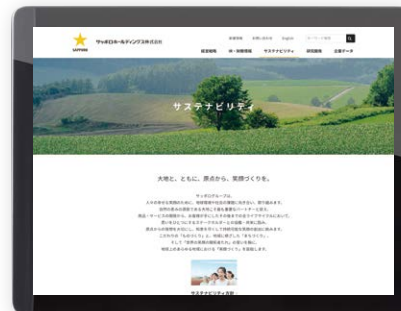
詳細情報(各事業ごとの活動や財務・非財務データ、サステナビリティ、ガバナンス情報など)につきましては、当社 Web サイトをご覧ください。

コーポレートサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/>

サステナビリティサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/csr/>



外部からの評価



FTSE4Good

FTSE Blossom
Japan

ESG 投資インデックスへの
組み入れ

2020 CONSTITUENT MSCI ジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

S&P/JPX
Carbon
Efficient
Index

2020

Sompo Sustainability Index

「健康経営優良法人2021」に認定

2021
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト5002021
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

「プラチナくるみん」を継続取得



女性活躍推進に優れた
企業を選出する「準なでしこ」に選定



女性活躍推進企業認定
「えるぼし(2段階目)」取得



日経「スマートワーク経営」で星4.5を獲得



★★★★ 2021 Best 54

「サステナビリティブック 2021」PDF版



「サステナビリティブック 2021」PDF版は
こちらからご覧いただけます。

https://www.sapporoholdings.jp/csr/sustainability_book/



SAPPORO

サッポロホールディングス株式会社

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号

<https://www.sapporoholdings.jp/>